

令和6年度 福島県
家庭ごみ排出モニタリングモデル事業業務委託

報告書

令和7年2月

エヌエス環境株式会社 福島支店

目 次

1. 業務概要	1
1-1. 業務名	1
1-2. 業務目的	1
1-3. 履行期間	1
2. モニタリング概要	2
2-1. 参加者の選定	2
2-2. 説明会の実施	2
2-3. モニタリングの実施内容	3
3. 記録表・アンケートの回収結果	4
4. 参加住民の属性	5
4-1. 年代分布	5
4-2. 世帯種別	6
4-3. 住居地	7
4-4. 住居形態	8
5. モニタリング結果	9
5-1. 集計対象	9
5-2. 全体のモニタリング結果	9
5-2-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量	9
5-2-2. 可燃ごみ発生量	9
5-2-3. 1世帯当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	9
5-2-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	10
5-3. 西会津町のモニタリング結果	10
5-3-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量	10
5-3-2. 可燃ごみ発生量	10
5-3-3. 1世帯当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	11
5-3-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	11
5-4. 川俣町のモニタリング結果	12
5-4-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量	12
5-4-2. 可燃ごみ発生量	12
5-4-3. 1世帯当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	12
5-4-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	13
5-5. 南相馬市のモニタリング結果	13
5-5-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量	13
5-5-2. 可燃ごみ発生量	13
5-5-3. 1世帯当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	14

5-5-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	14
5-6. 各市町の比較	15
5-6-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量	15
5-6-2. 可燃ごみ発生量	15
5-6-3. 生ごみの削減率	16
5-6-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量	16
5-7. モニタリング中の時系列変化	17
5-7-1. コンポスト投入量	17
5-7-2. 可燃ごみ排出量	19
6. アンケート結果	21
6-1. モニタリングの参加理由	21
6-2. モニタリングに参加したきっかけ	22
6-3. ダンボールコンポストによるごみ減量の取組経験	22
6-4. 堆肥の利用先	23
6-5. ダンボールコンポストの設置場所	24
6-6. ダンボールコンポストの使用頻度 [期間全体の平均]	25
6-7. 投入した生ごみの種別 [複数回答可]	26
6-8. 投入した生ごみの由来 [複数回答可]	27
6-9. 投入した生ごみに含まれていた食品ロスの割合	28
6-10. 生ごみの分解状況 [複数回答可]	29
6-11. 生ごみの分解を促進させる取り組み	30
6-12. 虫の発生と対策の有無	31
6-13. 臭いの発生と対策の有無	34
6-14. モニタリングに参加しての感想	36
6-15. ごみ減量に対する意識の変化	37
6-16. 今後の取り組みについて	38
6-17. 今後このような企画があれば参加するか	40
6-18. モニタリング実施時の工夫点 [自由記述]	42
6-19. 福島県民の1人1日当たりのごみ排出量は全国でワースト1位であることについて、あなたの意見・感想があれば教えてください [自由記述]	43
7. まとめ	47

別添資料

・ダンボールコンポスト記録表 ・参加者アンケート ・写真集

1. 業務概要

1-1. 業務名

令和6年度福島県家庭ごみ排出モニタリングモデル事業業務委託

1-2. 業務目的

令和4年度における福島県の1人1日当たりのごみ排出量(1,021g)は全国ワースト1位であり、リサイクル率(12.8%)は全国ワースト2位である。令和5年度に県が行った家庭系の燃えるごみ組成分析調査によれば、生ごみの比率が最も高く(約35%)、また、リサイクルの可能な古紙類や容器包装等も多く含まれていた(約14%)。

そこで、本事業では、市町村の協力のもと、各家庭が燃えるごみの排出量をモニタリングしながら、ごみ分別の徹底や生ごみ等の排出量削減に取り組むことで、自分事としてごみの排出量の削減を実施するモデルを構築する。

なお、本事業の成果は、県全体のごみ排出量削減及びリサイクル率の向上に寄与するため、県内へ広く水平展開し、次年度以降も継続的に活用を図っていく。

1-3. 履行期間

令和6年5月14日～令和7年2月28日

2. モニタリング概要

2-1. 参加者の選定

西会津町、川俣町、南相馬市の3市町を対象とし、3市町と協議しながらモデル事業に参加する81世帯（西会津町17世帯、川俣町21世帯、南相馬市43世帯。以下「参加住民」という。）を選定した。

なお、当初想定していたモデル地区は選定せず、市町が全域から参加住民を募った。

2-2. 説明会の実施

モニタリングの開始前に各市町において、参加住民を対象にモデル事業の内容及び実施方法、ダンボールコンポストを使用した生ごみの排出量削減方法、ごみの分別方法、その他家庭で実施可能なごみの排出量削減手法等に関する説明会を実施した。また、説明会の実施に伴い、モニタリングに必要な資料と機材の配布を行った。

説明会の日程一覧を表2-2に示す。

配布物一覧：ダンボール箱、基材（腐葉土3.5kg、米ぬか2.1kg）、吊りはかり、ゴム手袋
記録表・アンケート、説明会資料、返送用送付状・封筒

表 2-2 説明会の日程一覧

	日時		場所	参加人数
西会津町	7月26日(金)	14:30~	西会津町役場3階 大会議室	9
		18:30~	西会津町役場3階 大会議室	8
川俣町	7月23日(火)	18:30~	川俣町役場3階 大会議室	10
	7月24日(水)	10:00~	川俣町役場3階 大会議室	11
南相馬市	7月23日(火)	13:30~	原町保健センター2階 会議室	11
	7月24日(水)	18:00~	南相馬市役所 東庁舎2階 第1会議室	4
	8月22日(木)	10:00~	上渋佐公会堂	5
13:00~		南相馬市役所 本庁舎3階 第一会議室	7	



図 2-2 説明会状況写真

2-3. モニタリングの実施内容

①実施期間

7月から12月の間で2ヶ月間（60日間）

②記録内容

- ・実施日
- ・可燃ごみ排出量（ごみ収集日に出した可燃ごみの重さ）
- ・ダンボールコンポスト投入量
- ・コンポストに投入した生ごみの概要
- ・コンポスト内の様子・備考
- ・モニタリング中の写真（任意）
- ・アンケート

③記録表・アンケートの提出方法

宅配便（着払い）にて記録用紙・アンケートの返送

また、参加住民からのモニタリング手法やコンポストの使用方法等に関する相談に対応するため、モニタリング実施期間中の平日9時～17時に電話またはメールによる相談受付窓口を設け、参加住民に周知した。月に1回程度、参加住民に取り組み状況を電話で聞き取ることとし、モニタリングの継続やごみ排出量削減の取組を促した。

3. 記録表・アンケートの回収結果

記録表・アンケートの回収結果は、81世帯中55世帯から返送があり、回収率は67.9%となった。(辞退者は返送なしとして集計を行った。)

また内訳は、西会津町が14世帯、川俣町が13世帯、南相馬市が28世帯となっており、回収率は82.4%で西会津町が一番高く、61.9%の川俣町が一番低かった。

表 3-1 記録表・アンケートの回収結果（世帯数）

	返送あり	返送なし	計	回収率
西会津町	14	3	17	82.4%
川俣町	13	8	21	61.9%
南相馬市	28	15	43	65.1%
全体	55	26	81	67.9%

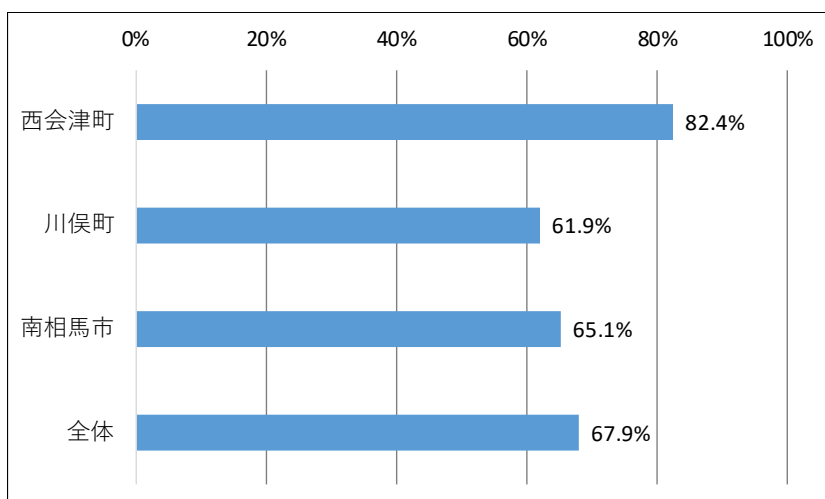


図 3-1 記録表・アンケート回収率

4. 参加住民の属性

4-1. 年代分布

参加住民の年代分布は、61歳以上の割合が51.9%と一番高く、続いて41～60歳の20.5%、21～40歳の14.7%であった。10歳以下と11～20歳の割合は6.4%と低かった。西会津町では、61歳以上の割合が78.8%と、他の市町と比べ高齢者の割合が高かった。

このことから今回のモニタリングでは、日中、比較的時間に余裕のある高齢者の方が多く参加していたことが考えられる。

表 4-1 年代分布（人）

年代	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
～10歳	0	2	8	10	6.4%
11～20歳	2	1	7	10	6.4%
21～40歳	1	8	14	23	14.7%
41～60歳	4	9	19	32	20.5%
61歳～	26	15	40	81	51.9%
計	33	35	88	156	100.0%

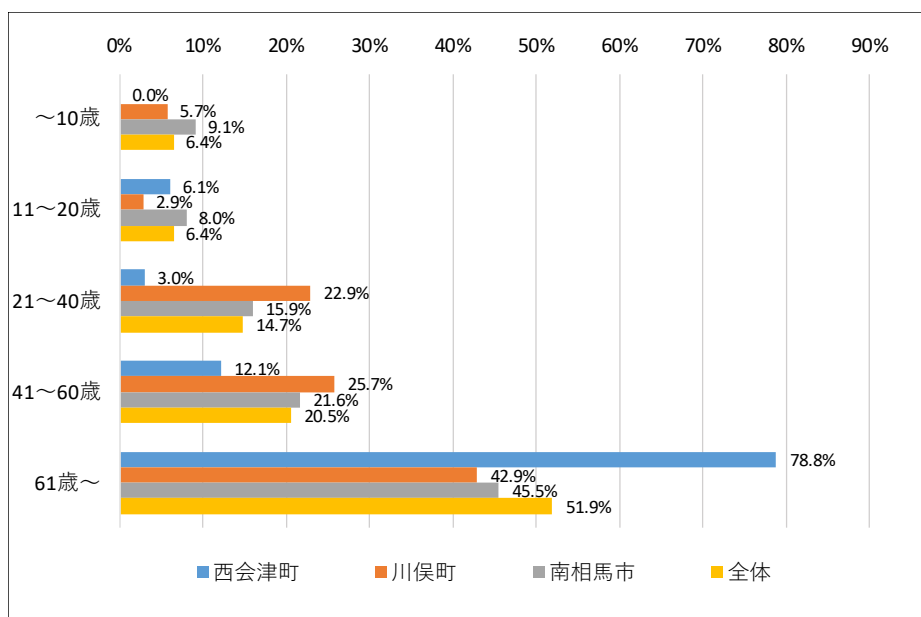


図 4-1 年代分布

4-2. 世帯種別

参加住民の世帯人数は、2人世帯の38.2%が一番高く、続いて3人世帯が23.6%、4人世帯が14.5%、1人世帯が12.7%であった。

また、5人以上の世帯に関しては合計で10.9%であり、今回のモニタリングでは少人数世帯の参加が多かった。

表 4-2 世帯種別（世帯数）

世帯種別	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
1人世帯	3	1	3	7	12.7%
2人世帯	6	6	9	21	38.2%
3人世帯	3	2	8	13	23.6%
4人世帯	1	4	3	8	14.5%
5人世帯	1	-	2	3	5.5%
6人世帯	-	-	1	1	1.8%
7人世帯	-	-	1	1	1.8%
8人世帯	-	-	1	1	1.8%
計	14	13	28	55	100.0%

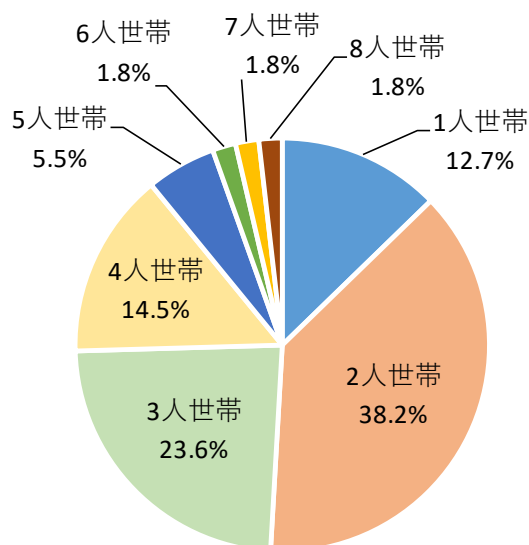


図 4-2 世帯種別内訳

4-3. 住居地

参加住民の住居地は、郊外(周辺に田畑・農村部含む)の52.7%が一番高く、続いて住宅街(住居専用)が27.3%、市街地(町中心部)は12.7%であった。

また、西会津町と川俣町では郊外が半数以上を占めていたが、南相馬市では住宅街と郊外が4割程度で同程度となった。

表 4-3 住居地 (世帯数)

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
市街地(町中心部)	1	1	5	7	12.7%
住宅街(住居専用)	1	4	10	15	27.3%
郊外(周辺に田畑・農村部含む)	10	8	11	29	52.7%
無回答	2	0	2	4	7.3%
計	14	13	28	55	100.0%

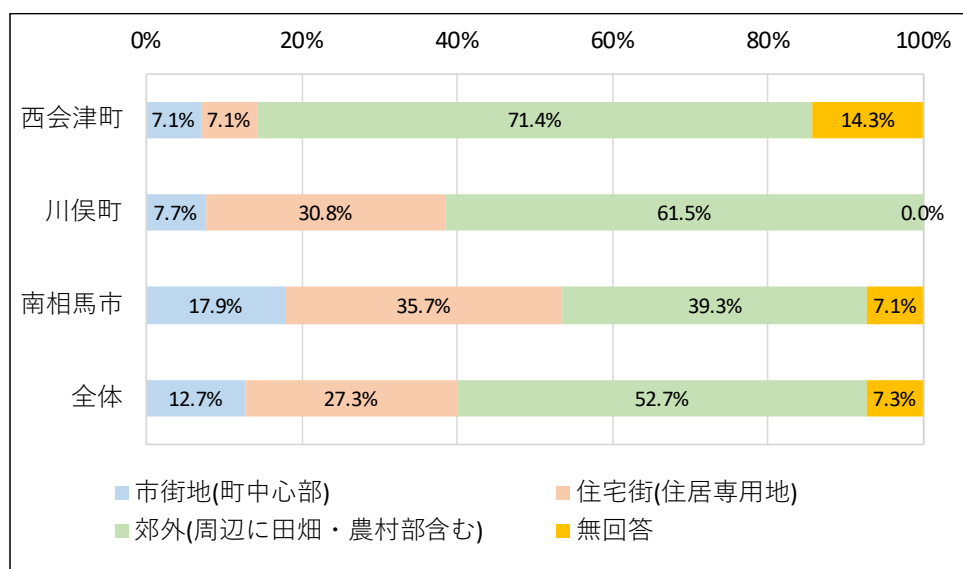


図 4-3 住居地内訳

4-4. 住居形態

参加住民の住居形態は、戸建が 85.5%、集合住宅(マンション・アパート・寮・社宅)が 9.1%であった。

よって、今回のモニタリングでは、ほとんどの参加住民が戸建であり、集合住宅は全体で 5世帯のみだった。

表 4-4 住居形態 (世帯数)

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
戸建	13	12	22	47	85.5%
集合住宅(マンション・アパート・寮・社宅)	0	1	4	5	9.1%
無回答	1	0	2	3	5.5%
計	14	13	28	55	100.0%

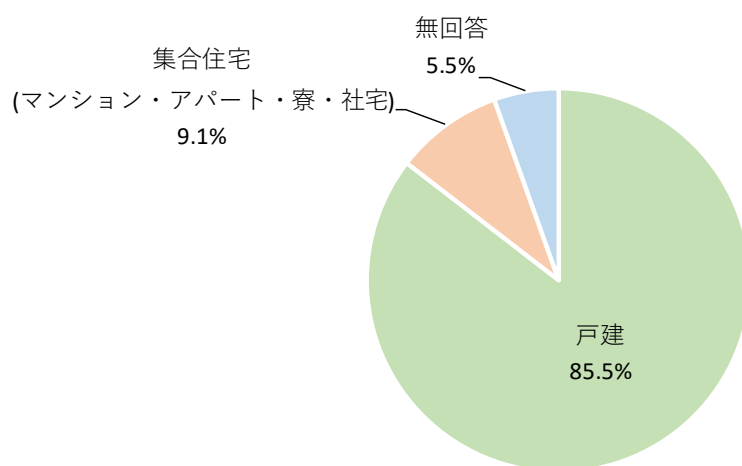


図 4-4 住居形態内訳

5. モニタリング結果

5-1. 集計対象

参加していただいた 81 世帯の各家庭で、7～12 月の期間中に約 60 日間、可燃ごみ排出量とダンボールコンポストへの投入量の計測及び記録を実施し、記録表の返送があった 55 世帯を対象とする。

なお、可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった世帯が 5 世帯、虫の大量発生により 60 日間実施できなかった世帯が 2 世帯（27 日間、19 日間実施）あった。

5-2. 全体のモニタリング結果

全体のモニタリングの平均取組日数は、約 57.6 日間であり、平均世帯人数は、約 2.7 人であった。

5-2-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量

記録表の返送があった 55 世帯のモニタリング期間中の堆肥化による生ごみ削減量の総量は約 698.7kg であった。

5-2-2. 可燃ごみ発生量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった 5 世帯を除く 50 世帯の、モニタリング期間中に排出された可燃ごみの排出量は、約 3,001.5kg であり、ダンボールコンポストへの生ごみの投入量である約 615.7 kg と合わせると可燃ごみの発生量は、約 3,617.2kg であった。

5-2-3. 1 世帯当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった 5 世帯を除く 50 世帯の、モニタリング期間中に発生した可燃ごみの総量は、約 3,617.2 kg であり、一世帯当たり約 72.3 kg であった。また、コンポストへの投入量の総量は約 615.7 kg で、一世帯当たり約 12.3 kg 投入された。よって、今回のモニタリングでは、ダンボールコンポストによる生ごみの削減率は、約 17.0% という結果となった。

また、平均取組日数が約 57.6 日間で、対象が 50 世帯であることから、1 世帯 1 日当たりの可燃ごみの総量は約 1,256g であり、1 世帯 1 日当たりのコンポストへの投入量は約 214g であった。

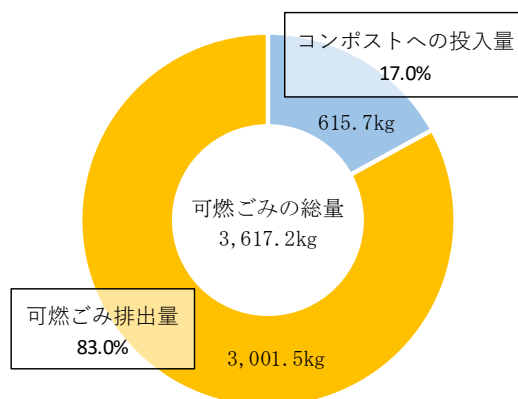


図 5-2-3 モニタリング中の可燃ごみ内訳

5-2-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった5世帯を除く50世帯の、モニタリング期間中の可燃ごみの総量は約3,617.2kgであり、平均取組日数は57.6日間で、50世帯の取組人数は142人であることから、1人1日当たりの可燃ごみの総量は、約442gであった。また、ダンボールコンポストへの生ごみ投入量は約615.7kgであるため、1人1日当たりの生ごみの削減量は約75gであった。

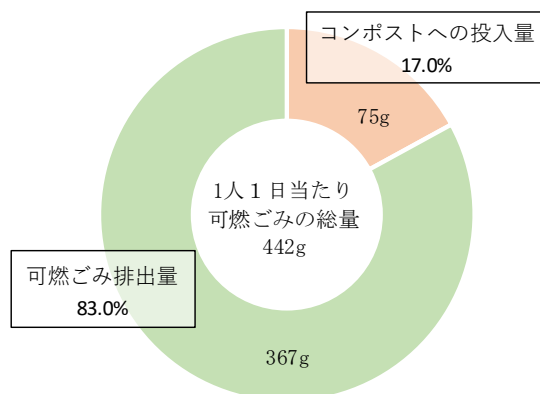


図 5-2-4 1人1日当たりの可燃ごみ内訳

5-3. 西会津町のモニタリング結果

西会津町の参加住民からの記録表の返送は14世帯あり、そのうち可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった世帯が4世帯あった。

また、平均取組日数は、約59.7日間であり、平均世帯人数は、約2.7人であった。

5-3-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量

記録表の返送があった14世帯のモニタリング期間中の堆肥化による生ごみ削減量の総量は約193.2kgであった。

5-3-2. 可燃ごみ発生量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった4世帯を除く10世帯の、モニタリング期間中に排出された可燃ごみの排出量は、約674.5kgであり、ダンボールコンポストへの生ごみの投入量である約131.2kgと合わせると可燃ごみの発生量は、約805.7kgであった。

5-3-3. 1世帯当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった4世帯を除く10世帯の、モニタリング期間中に発生した可燃ごみの総量は、約805.7kgであり、一世帯当たり約80.6kgであった。また、コンポストへの投入量の総量は約131.2kgで、一世帯当たり約13.1kg投入された。よって、今回のモニタリングでは、ダンボールコンポストによる生ごみの削減率は、約16.3%という結果となった。

また、平均取組日数が約59.7日間で、対象が10世帯であることから、1世帯1日当たりの可燃ごみの総量は約1,350gであり、1世帯1日当たりのコンポストへの投入量は約220gであった。

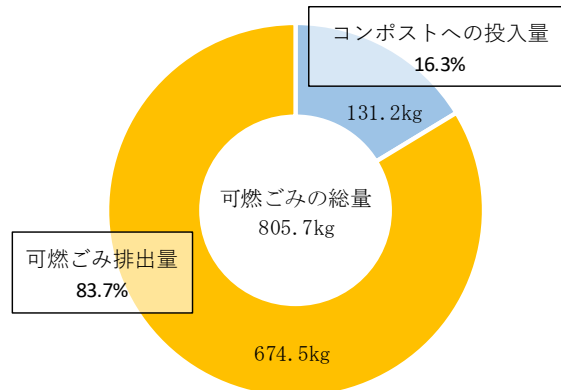


図 5-3-3 西会津町のモニタリング中の可燃ごみ内訳

5-3-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった4世帯を除く10世帯の、モニタリング期間中の可燃ごみの総量は約805.7kgであり、平均取組日数は59.7日間で、10世帯の取組人数は27人であることから、1人1日当たりの可燃ごみの総量は、約500gであった。また、ダンボールコンポストへの生ごみ投入量は約131.2kgであるため、1人1日当たりの生ごみの削減量は約81gであった。

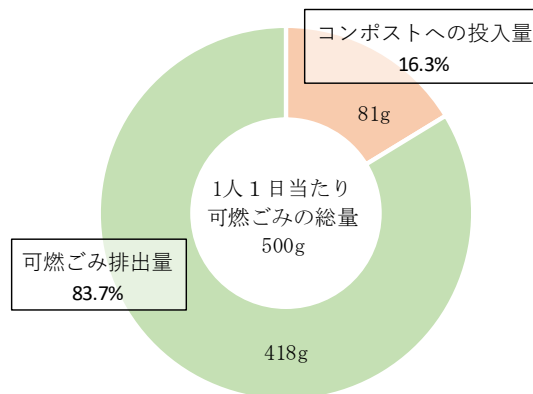


図 5-3-4 西会津町の1人1日当たりの可燃ごみ内訳

※端数処理のため数値が合わない場合がある

5-4. 川俣町のモニタリング結果

川俣町の参加住民からの記録表の返送は 13 世帯あった。

また、平均取組日数は、約 54.1 日間であり、平均世帯人数は、約 2.4 人であった。

5-4-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量

記録表の返送があった 13 世帯のモニタリング期間中の堆肥化による生ごみ削減量の総量は約 165.2kg であった。

5-4-2. 可燃ごみ発生量

記録表の返送があった 13 世帯のモニタリング期間中に排出された可燃ごみの排出量は、約 814.4kg であり、ダンボールコンポストへの生ごみの投入量である約 165.2 kg と合わせると可燃ごみの発生量は、約 979.7kg であった（端数処理のため数値が合わない場合がある。）。

5-4-3. 1 世帯当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

記録表の返送があった 13 世帯のモニタリング期間中に発生した可燃ごみの総量は、約 979.7 kg であり、一世帯当たり約 75.4 kg であった。また、コンポストへの投入量の総量は約 165.2 kg で、一世帯当たり約 12.7 kg 投入された。よって、今回のモニタリングでは、ダンボールコンポストによる生ごみの削減率は、約 16.9% という結果となった。

また、平均取組日数が約 54.1 日間で、対象が 13 世帯であることから、1 世帯 1 日当たりの可燃ごみの総量は約 1,393g であり、1 世帯 1 日当たりのコンポストへの投入量は約 235g であった。

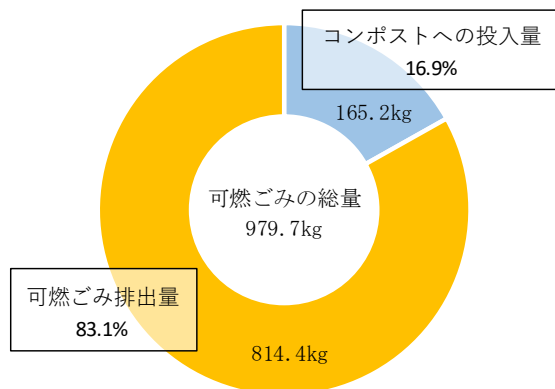


図 5-4-3 川俣町のモニタリング中の可燃ごみ内訳

※端数処理のため数値が合わない場合がある

5-4-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

記録表の返送があった13世帯のモニタリング期間中の可燃ごみの総量は約979.7kgであり、平均取組日数は54.1日間で、13世帯の取組人数は31人であることから、1人1日当たりの可燃ごみの総量は、約584gであった。また、ダンボールコンポストへの生ごみ投入量は約165.2kgであるため、1人1日当たりの生ごみの削減量は約99gであった。

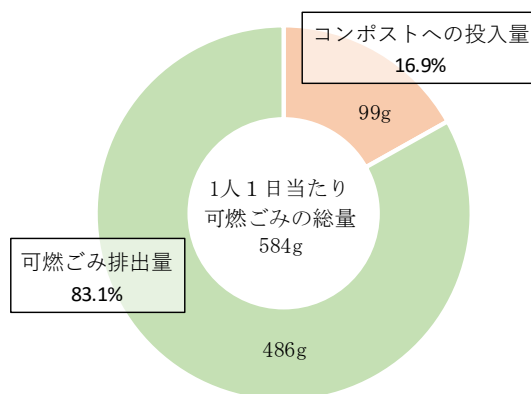


図 5-4-4 川俣町の1人1日当たりの可燃ごみ内訳

※端数処理のため数値が合わない場合がある

5-5. 南相馬市のモニタリング結果

南相馬市の参加住民からの記録表の返送は28世帯あり、そのうち可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった世帯が1世帯、虫の大量発生により60日間実施できなかった世帯が2世帯（27日間、19日間実施）あった。

また、平均取組日数は、約59.0日間であり、平均世帯人数は、約3.1人であった。

5-5-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量

記録表の返送があった28世帯のモニタリング期間中の堆肥化による生ごみ削減量の総量は約340.3kgであった。

5-5-2. 可燃ごみ発生量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった1世帯を除く27世帯の、モニタリング期間中に排出された可燃ごみの排出量は、約1,512.5kgであり、ダンボールコンポストへの生ごみの投入量である約319.3kgと合わせると可燃ごみの発生量は、約1,831.8kgであった。

5-5-3. 1世帯当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった1世帯を除く27世帯の、モニタリング期間中に発生した可燃ごみの総量は、約1,831.8kgであり、一世帯当たり約67.8kgであった。また、コンポストへの投入量の総量は約319.3kgで、一世帯当たり約11.8kg投入された。よって、今回のモニタリングでは、ダンボールコンポストによる生ごみの削減率は、約17.4%という結果となった。

また、平均取組日数が約59.0日間、対象が27世帯であることから、1世帯1日当たりの可燃ごみの総量は約1,150gであり、1世帯1日当たりのコンポストへの投入量は約200gであった。

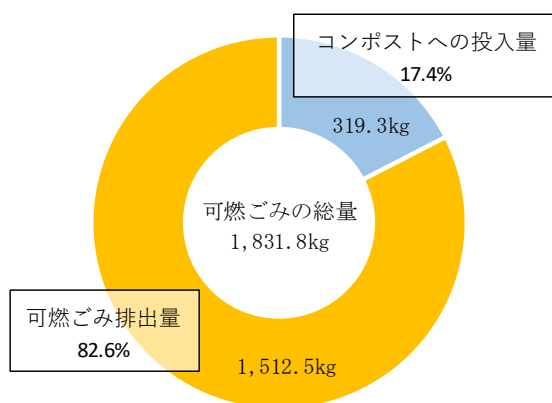


図 5-5-3 南相馬市のモニタリング中の可燃ごみ内訳

5-5-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった1世帯を除く27世帯の、モニタリング期間中の可燃ごみの総量は約1,831.8kgであり、平均取組日数は59.0日間で、27世帯の取組人数は84人であることから、1人1日当たりの可燃ごみの総量は、約370gであった。また、ダンボールコンポストへの生ごみ投入量は約319.3kgであるため、1人1日当たりの生ごみの削減量は約64gであった（端数処理のため数値が合わない場合がある。）。

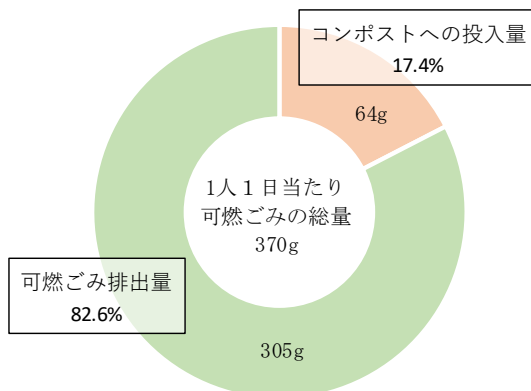


図 5-5-4 南相馬市の1人1日当たりの可燃ごみ内訳

※端数処理のため数値が合わない場合がある

5-6. 各市町の比較

5-6-1. ダンボールコンポストによる生ごみの削減量

記録表の返送があった55世帯のモニタリング期間中の堆肥化による生ごみ削減量の総量は、西会津町では約193.2kg、川俣町では約165.2kg、南相馬市では約340.3kgであり、全体で約698.7kgであった。

また、一世帯当たりの削減量では、西会津町では約13.8kg、川俣町では約12.7kg、南相馬市では約12.2kgであり、西会津町が他の市町と比べ一世帯当たりの生ごみの削減量が多い結果となった。

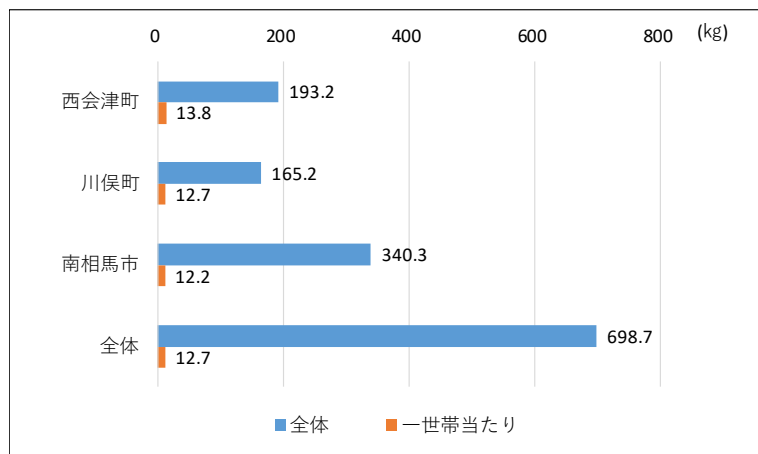


図 5-6-1 生ごみの削減量

5-6-2. 可燃ごみ発生量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった5世帯を除く50世帯の、モニタリング期間中に排出された可燃ごみの総量は、西会津町では約805.7kg、川俣町では約979.7kg、南相馬市では約1,831.8kgであり、全体で約3,617.2kgであった。

また、一世帯当たりの発生量では、西会津町では約80.6kg、川俣町では約75.4kg、南相馬市では約67.8kgであり、南相馬市が他の市町と比べ一世帯当たりの可燃ごみの総量が少ない結果となった。

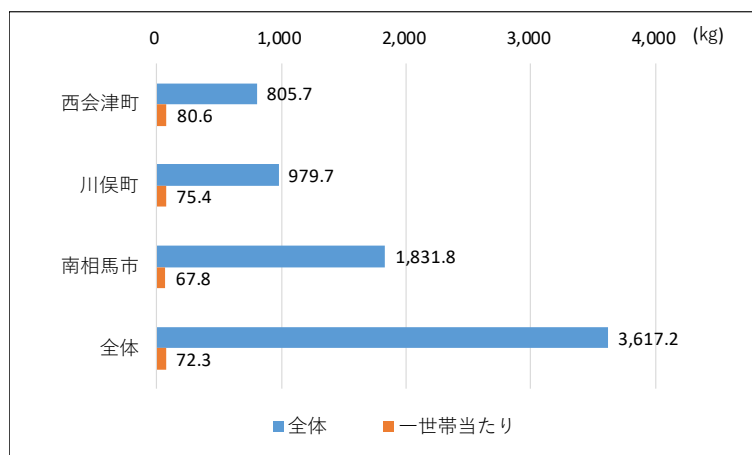


図 5-6-2 可燃ごみ発生量

5-6-3. 生ごみの削減率

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった5世帯を除く50世帯の、モニタリング期間中に排出された生ごみの削減率は、西会津町では約16.3%、川俣町では約16.9%、南相馬市では約17.4%であり、全体で約17.0%であった。

生ごみの削減率については、各市町で1%程度しか変わらず大きな差はなかった。

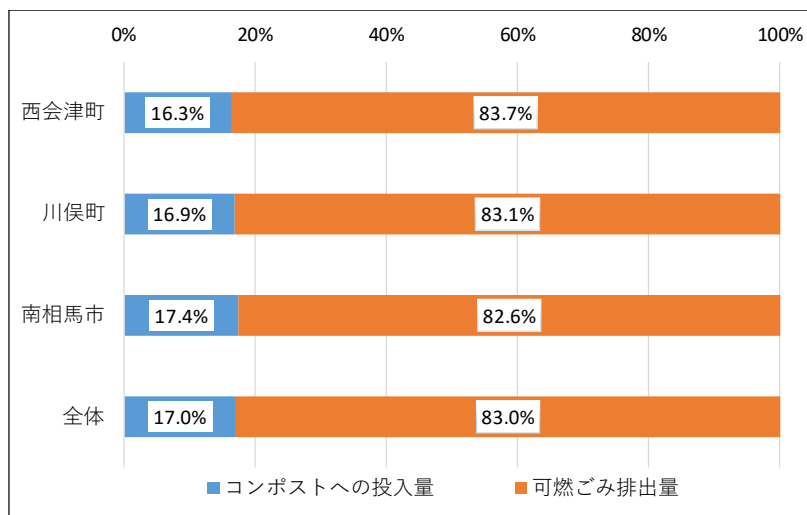


図 5-6-3 生ごみの削減率

5-6-4. 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった5世帯を除く50世帯の、モニタリング期間中の1人1日当たりの可燃ごみの総量は、西会津町では約500g、川俣町では約584g、南相馬市では約369gであり、全体で約442gであった。1人1日当たりの生ごみの削減量は、西会津町では約81g、川俣町では約99g、南相馬市では約64gであり、全体で約75gであった。

1人1日当たりの可燃ごみの総量が多い市町ほど、生ごみの削減量も増加する傾向が見られた。

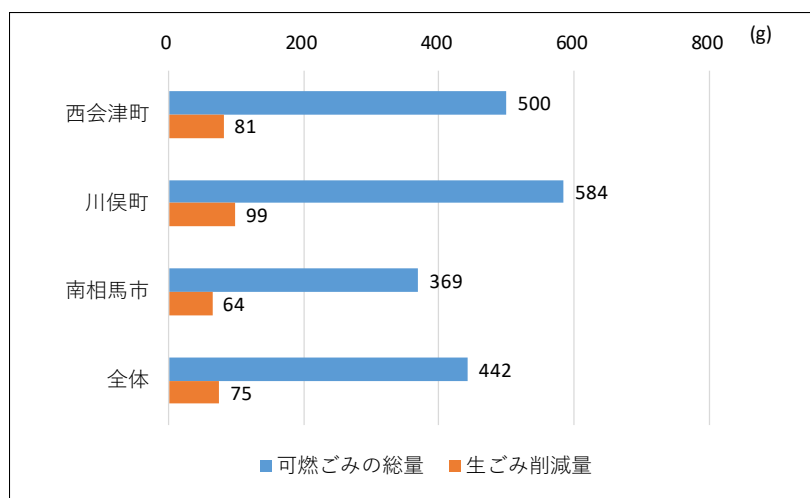


図 5-6-4 1人1日当たりの可燃ごみと生ごみ削減量

5-7. モニタリング中の時系列変化

5-7-1. コンポスト投入量

記録表の返送があった55世帯のモニタリング期間中のコンポスト投入量の時系列変化は、西会津町では全期間を通して変化が見られなかったが、川俣町と南相馬市ではモニタリングが進むにつれ、僅かであるがコンポスト投入量の減少傾向が見られた。

減少傾向が見られた要因としては、モニタリングが進むにつれダンボールコンポストの分解能力が低下し、それに伴いコンポスト投入量が減少したと考えられる。

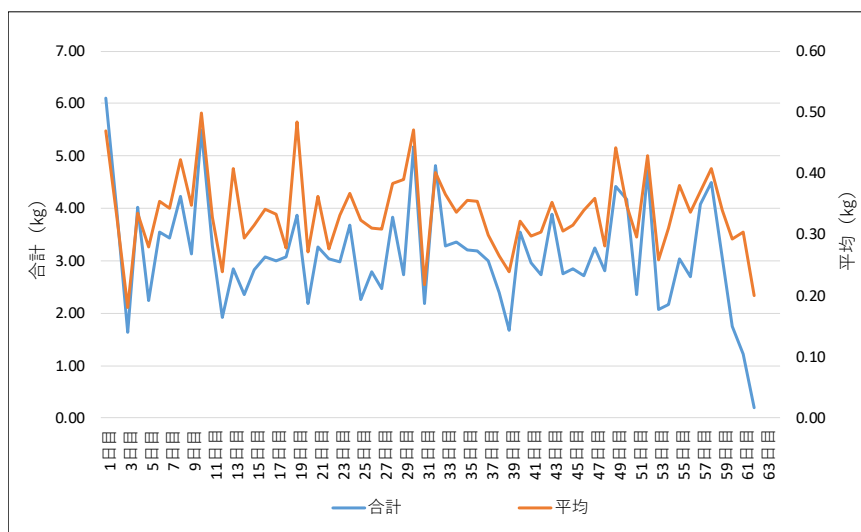


図 5-7-1 (1) コンポスト投入量の時系列変化 (西会津町)

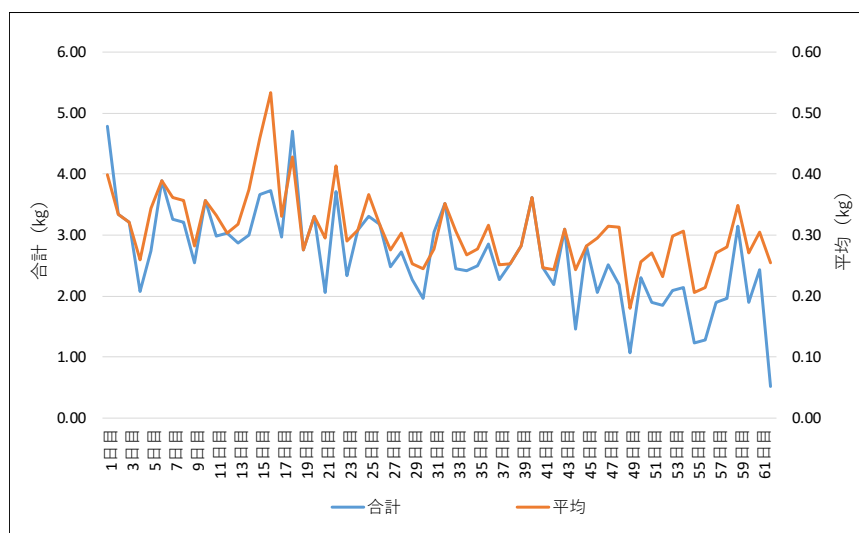


図 5-7-1 (2) コンポスト投入量の時系列変化 (川俣町)

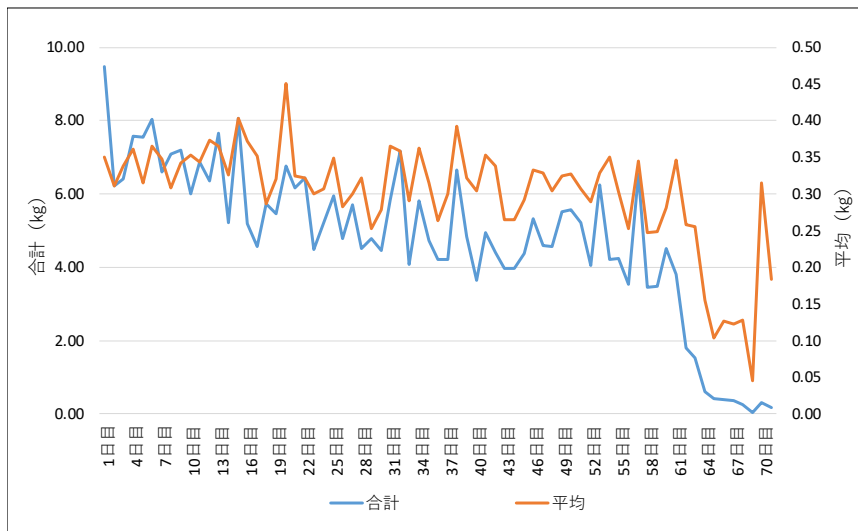


図 5-7-1(3) コンポスト投入量の時系列変化 (南相馬市)

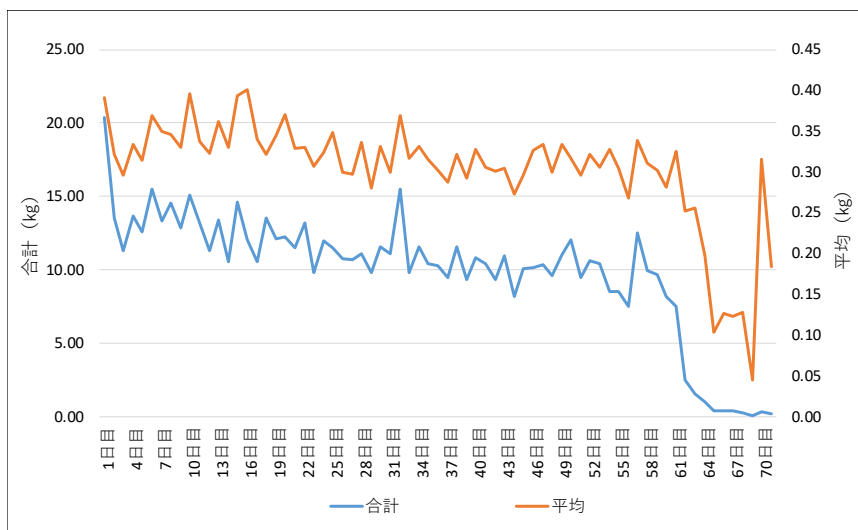


図 5-7-1(4) コンポスト投入量の時系列変化 (全体)

5-7-2. 可燃ごみ排出量

可燃ごみ排出量の記録を忘れてしまった5世帯を除く50世帯の、モニタリング期間中の可燃ごみ排出量の時系列変化は、各市町において減少傾向などの変化は見られなかった。

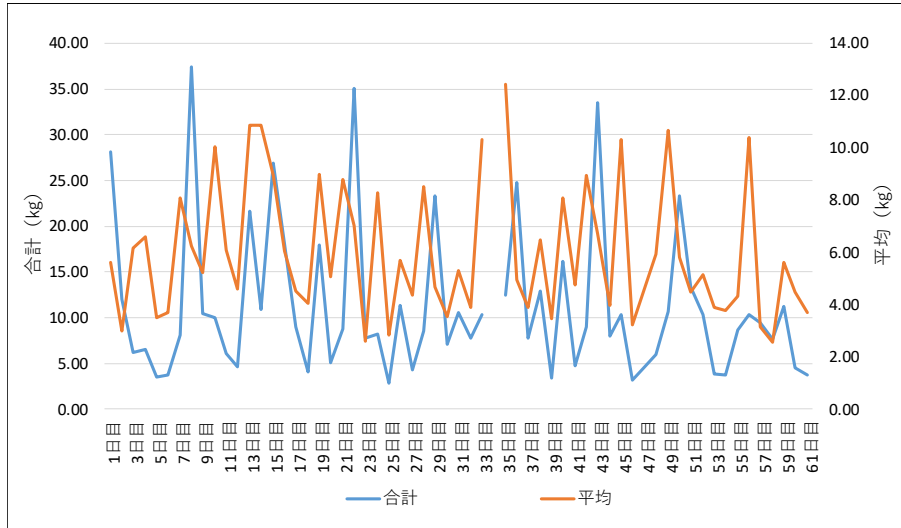


図 5-7-2(1) 可燃ごみ排出量の時系列変化（西会津町）

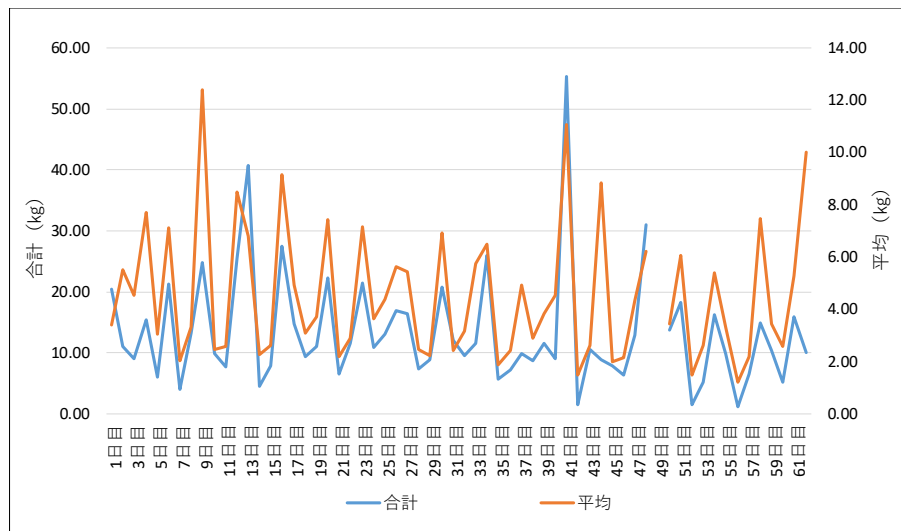


図 5-7-2(2) 可燃ごみ排出量の時系列変化（川俣町）

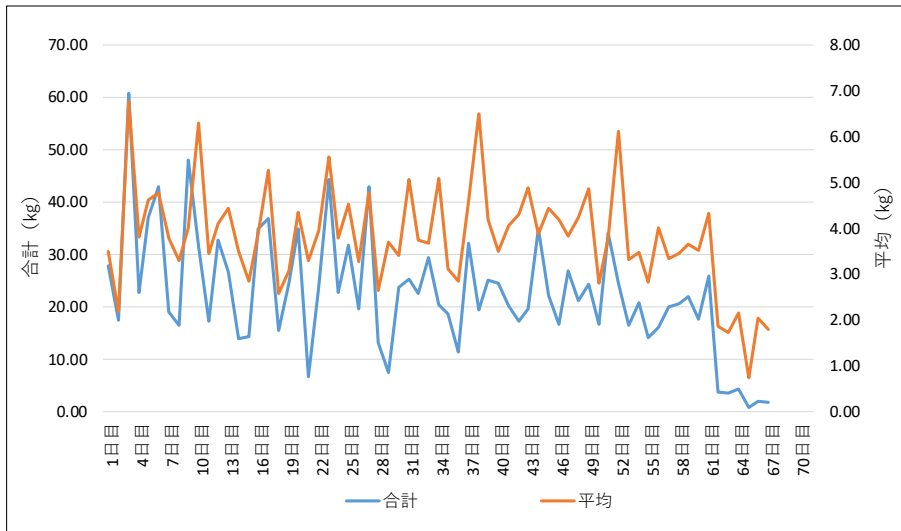


図 5-7-2(3) 可燃ごみ排出量の時系列変化 (南相馬市)

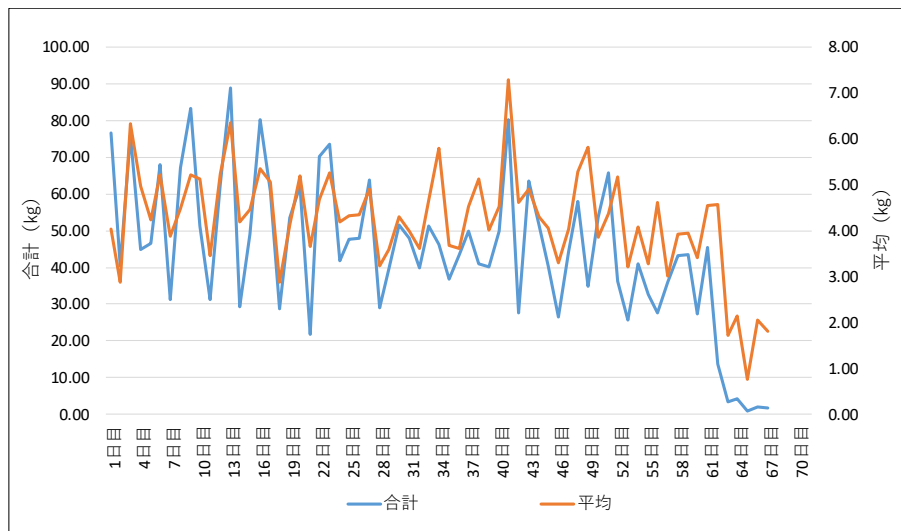


図 5-7-2(4) 可燃ごみ排出量の時系列変化 (全体)

6. アンケート結果

6-1. モニタリングの参加理由

モニタリングの参加理由は、「興味があったから・やってみたかったから」の47.3%が一番高く、続いて「環境問題の一環として取り組みたかった」が23.6%、「その他」が18.2%、「普段から行政の催しに参加しているから」が7.3%であった。その他の理由としては、「所属団体からの依頼」や「知人からの勧め」が挙げられた。

また、西会津町と川俣町では「興味があったから・やってみたかったから」が半数以上を占めていたが、南相馬市では「環境問題の一環として取り組みたかった」が4割程度と一番高く、参加理由に違いが見られた。

表 6-1 モニタリングの参加理由（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
興味があったから・やってみたかったから	9	10	7	26	47.3%
環境問題の一環として取り組みたかった	2	0	11	13	23.6%
普段から行政の催しに参加しているから	1	2	1	4	7.3%
その他	1	1	8	10	18.2%
無回答	1	0	1	2	3.6%
計	14	13	28	55	100.0%

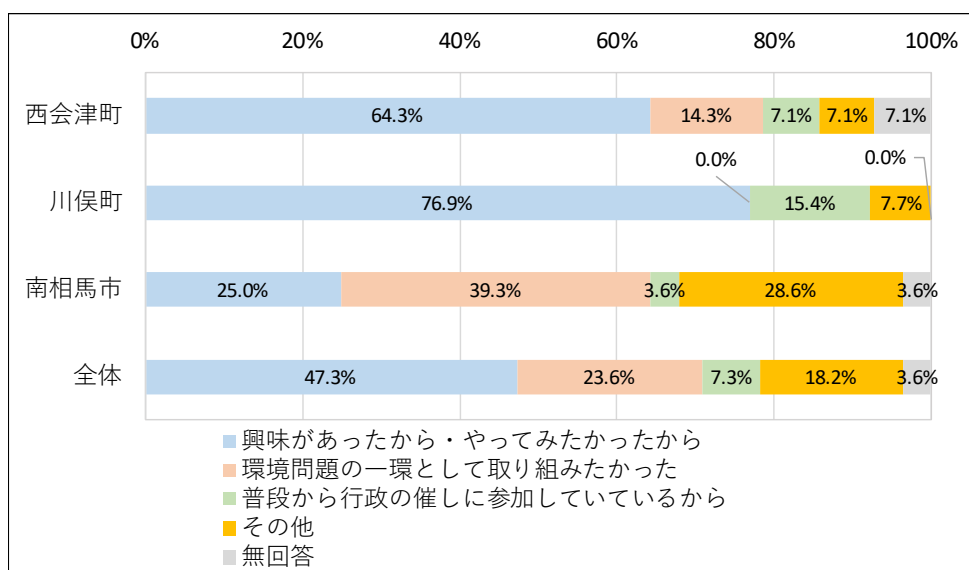


図 6-1 モニタリングの参加理由内訳

6-2. モニタリングに参加したきっかけ

モニタリングに参加したきっかけは、「他者の紹介（知人（職場・学校関係を含む）」の47.3%が一番高く、続いて「広報（ポスター・チラシ）」と「その他」が18.2%、「広報（ホームページ・SNS・会報誌）」が10.9%であった。その他のきっかけとしては、「ボランティア仲間の紹介」や「サロンでの勧め」などが挙げられた。

また、南相馬市では「他者の紹介」が6割程度であり、他の市町と比べ高かった。

表 6-2 モニタリングに参加したきっかけ（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
広報（ポスター・チラシ）	4	6	0	10	18.2%
広報（ホームページ・SNS・会報誌）	3	2	1	6	10.9%
他者の紹介（知人（職場・学校関係を含む））	4	5	17	26	47.3%
その他	2	0	8	10	18.2%
無回答	1	0	2	3	5.5%
計	14	13	28	55	100.0%

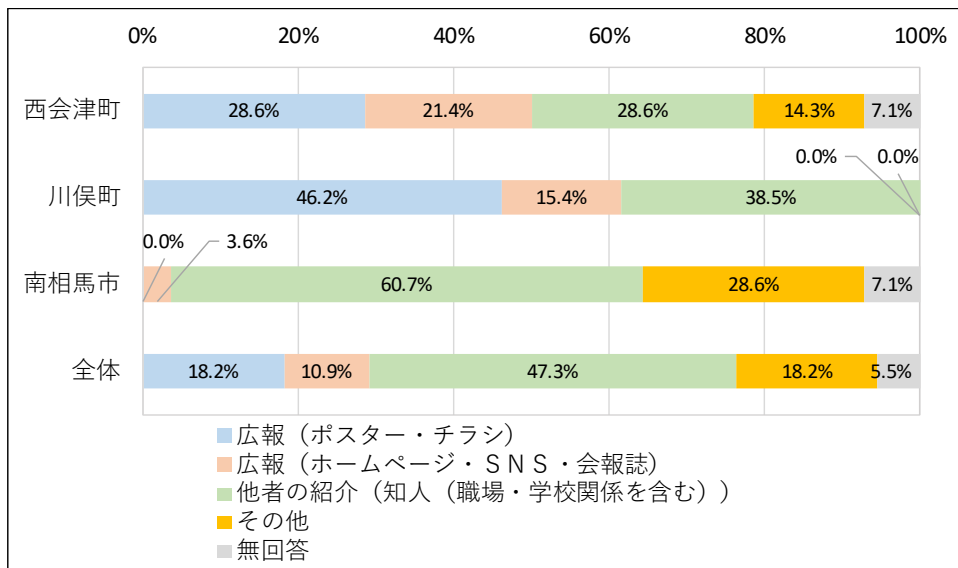


図 6-2 モニタリングに参加したきっかけ内訳

6-3. ダンボールコンポストによるごみ減量の取組経験

ダンボールコンポストによるごみ減量の取組経験は、無回答を除きすべての参加住民が初めて取り組むと回答した。

表 6-3 ダンボールコンポストによるごみ減量の取組経験

回答項目	回答数	割合
初めて取り組む	53	96.4%
過去に取り組んだことがある	0	0.0%
無回答	2	3.6%
計	55	100.0%

6-4. 堆肥の利用先

ダンボールコンポストでできた堆肥の利用先は、家庭菜園（自己消費）の58.2%が一番高く、続いて鉢・花壇が23.6%、畑利用（販売目的を含む）が12.7%、その他が1.8%であった。

このことから各市町ともに堆肥の利用先として、家庭菜園が多く選ばれていることが分かった。

表 6-4 堆肥の利用先（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
畑利用（販売目的を含む）	2	1	4	7	12.7%
家庭菜園（自己消費）	10	9	13	32	58.2%
鉢・花壇	1	3	9	13	23.6%
その他	0	0	1	1	1.8%
無回答	1	0	1	2	3.6%
計	14	13	28	55	100.0%

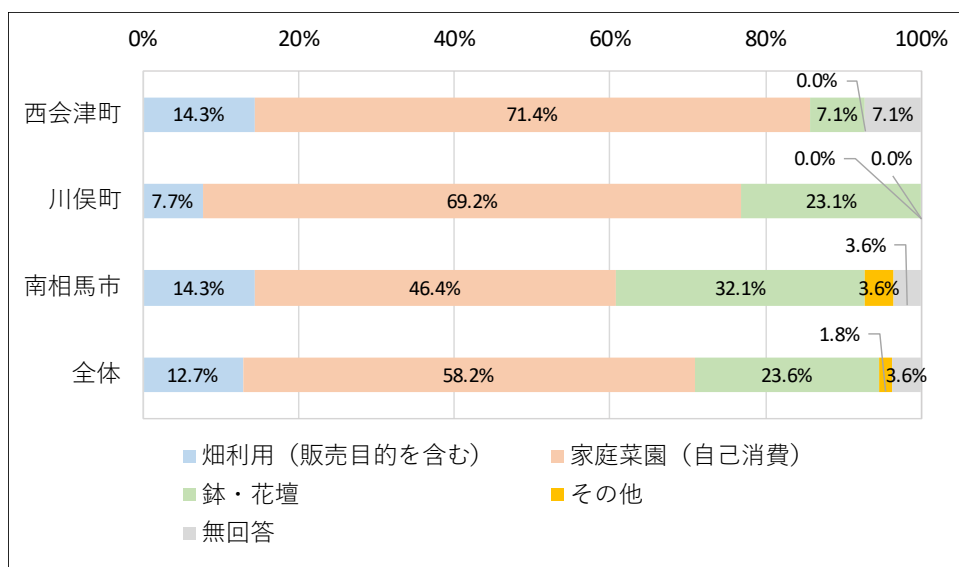


図 6-4 堆肥の利用先内訳

6-5. ダンボールコンポスの設置場所

ダンボールコンポスの設置場所は、車庫・倉庫の40.0%が一番高く、続いて軒下が29.1%、その他が9.1%、玄関とベランダが7.3%、台所が3.6%であった。その他の設置場所としては、テラスの下やウッドデッキなどが挙げられた。

また、西会津町では車庫・倉庫の割合が一番高かったが、川俣町では車庫・倉庫と軒下が同じ割合となり、南相馬市では軒下の割合が一番高かった。

表 6-5 ダンボールコンポスの設置場所（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
玄関	1	1	2	4	7.3%
台所	0	0	2	2	3.6%
車庫・倉庫	9	5	8	22	40.0%
軒下	1	5	10	16	29.1%
ベランダ	2	1	1	4	7.3%
その他	0	1	4	5	9.1%
無回答	1	0	1	2	3.6%
計	14	13	28	55	100.0%

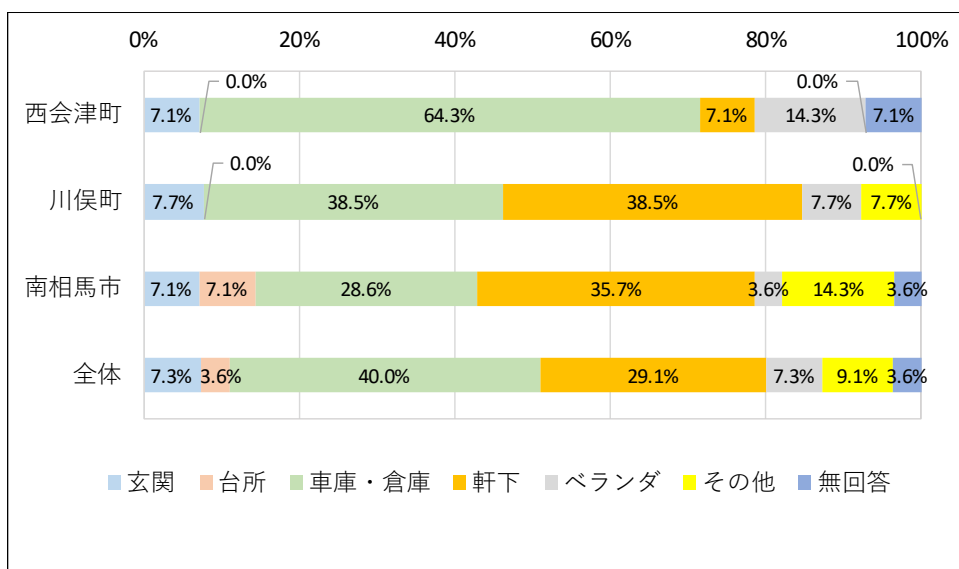


図 6-5 ダンボールコンポスの設置場所内訳

6-6. ダンボールコンポストの使用頻度 [期間全体の平均]

ダンボールコンポストの使用頻度は、毎日の43.6%が一番高く、続いて週2日～3日が21.8%、週4日～6日が20.0%、その他が10.9%であった。その他では週1日～2日などが挙げられた。

このことから、各市町ともにダンボールコンポストの使用頻度は、週4日以上の家帯が半数以上を占めていた。

表 6-6 ダンボールコンポストの使用頻度 (回答数)

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
毎日	6	7	11	24	43.6%
週4日～6日	3	1	7	11	20.0%
週2日～3日	2	4	6	12	21.8%
その他	2	1	3	6	10.9%
無回答	1	0	1	2	3.6%
計	14	13	28	55	100.0%

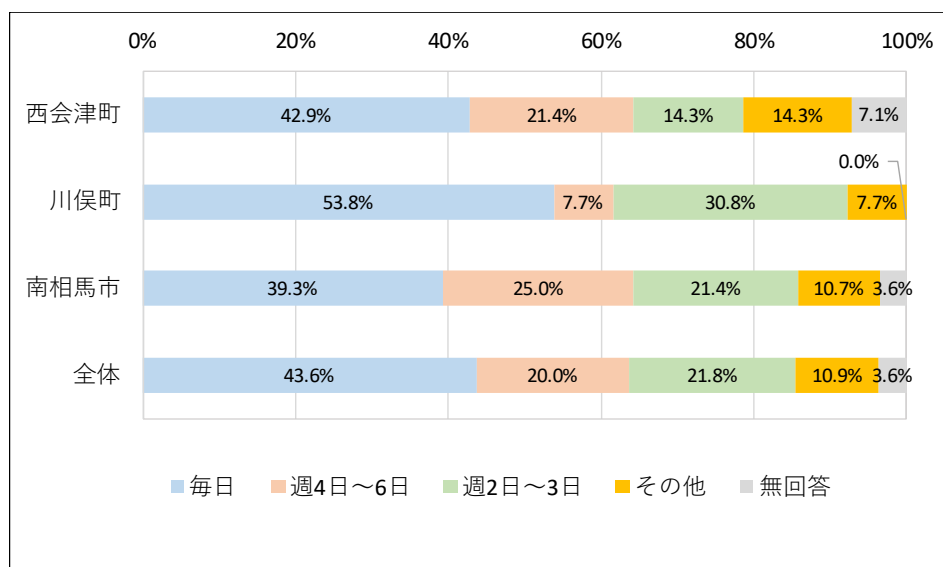


図 6-6 ダンボールコンポストの使用頻度内訳

6-7. 投入した生ごみの種別 [複数回答可]

ダンボールコンポストに投入した生ごみの種別は、野菜くずの20.4%が一番高く、続いて果物の皮が17.6%、残菜・残飯が13.7%、米ぬかが10.2%、その他の項目は10%以下であった。

各市町とも野菜くず、果物の皮、残菜・残飯の割合が多い結果となった。また、他の種別に関しても各市町で同じような割合となっており、地域ごとの違いは見られなかった。

表 6-7 投入した生ごみの種別 (回答数)

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
野菜くず	13	13	26	52	20.4%
果物の皮	9	13	23	45	17.6%
肉片・魚の内臓	2	2	2	6	2.4%
魚の骨・卵の殻	6	3	5	14	5.5%
残菜・残飯	9	9	17	35	13.7%
茶殻	5	6	13	24	9.4%
コーヒーがら	1	4	13	18	7.1%
廃食用油	5	5	6	16	6.3%
米ぬか	7	6	13	26	10.2%
米のとぎ汁	5	5	8	18	7.1%
その他	0	0	1	1	0.4%
計	62	66	127	255	100.0%

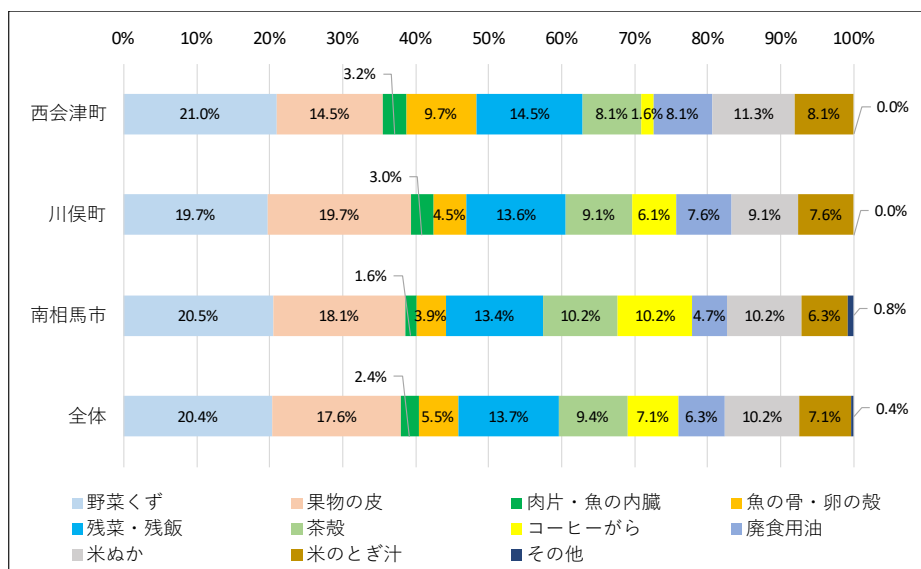


図 6-7 投入した生ごみの種別内訳

6-8. 投入した生ごみの由来 [複数回答可]

ダンボールコンポストに投入した生ごみの由来は、調理くず（へタ・皮など普段食用にしないもの）の 50.5%が一番高く、続いて食べ残しが 25.7%、余剰食材（調理後余った食材）が 14.3%、期限切れ（手つかず）が 8.6%であった。その他の回答が一つあり、その内容はお供え物であった。

各市町とも調理くずが5割程度となる結果となった。また、他の投入した生ごみの由来に関しても各市町で同じような割合となっており、地域ごとの違いは見られなかった。

表 6-8 投入した生ごみの由来（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
調理くず（へタ・皮など普段食用にしないもの）	13	13	27	53	50.5%
余剰食材（調理後余った食材）	5	2	8	15	14.3%
期限切れ（手つかず）	2	2	5	9	8.6%
食べ残し	6	6	15	27	25.7%
その他	0	1	0	1	1.0%
計	26	24	55	105	100.0%

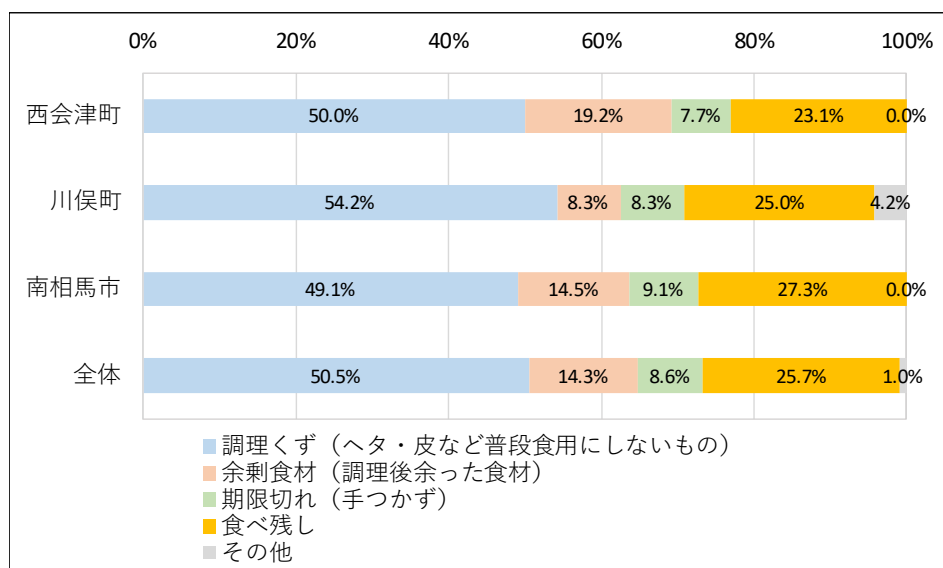


図 6-8 投入した生ごみの由来内訳

6-9. 投入した生ごみに含まれていた食品ロスの割合

ダンボールコンポストに投入した生ごみに含まれていた食品ロスの割合は、「10～50%含んでいたと思う」の47.3%が一番高く、続いて「食品ロスはなかったと思う」が38.2%、「50～90%含んでいたと思う」と「その他」が5.5%であった。その他では、「わずかにある」や「5%未満」などが挙げられた。

また、南相馬市と西会津町では「10～50%含んでいたと思う」が半数を占めていたが、川俣町では「食品ロスはなかったと思う」が半数以上を占める結果となった。

※食品ロス：本来食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。食べ残しや余剰食材、期限切れ食品等が該当する。

表 6-9 投入した生ごみに含まれていた食品ロスの割合（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
全部だったと思う	0	0	0	0	0.0%
50～90%含んでいたと思う	1	1	1	3	5.5%
10～50%含んでいたと思う	7	5	14	26	47.3%
食品ロスはなかったと思う	5	7	9	21	38.2%
その他	0	0	3	3	5.5%
無回答	1	0	1	2	3.6%
計	14	13	28	55	100.0%

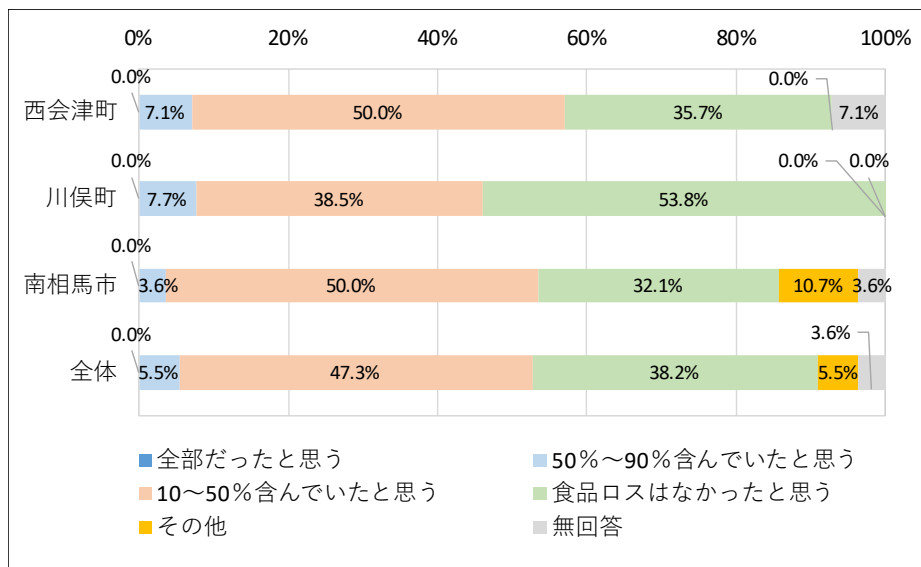


図 6-9 投入した生ごみに含まれていた食品ロスの割合内訳

6-10. 生ごみの分解状況 [複数回答可]

ダンボールコンポストの生ごみの分解状況は、「最初は早かったがだんだん遅くなった」の26.3%が一番高く、続いて「分解されないものもあった」が23.7%、「分解が遅かった」が19.7%、「最初は遅かったがだんだん早くなった」が13.2%、その他の項目は10%以下であった。その他では、「分解状況が分からない」や「気温が低い日は遅い」などが挙げられた。

各市町とも「分解しなかった」という回答はほとんどなく、分解のスピードに差はあるが生ごみが分解されていたことが分かった。

表 6-10 生ごみの分解状況 (回答数)

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
分解が早かった	1	1	4	6	7.9%
分解が遅かった	3	3	9	15	19.7%
最初は遅かったがだんだん早くなった	4	1	5	10	13.2%
最初は早かったがだんだん遅くなった	6	5	9	20	26.3%
分解されないものもあった	5	3	10	18	23.7%
分解しなかった	0	0	1	1	1.3%
その他	0	3	3	6	7.9%
計	19	16	41	76	100.0%

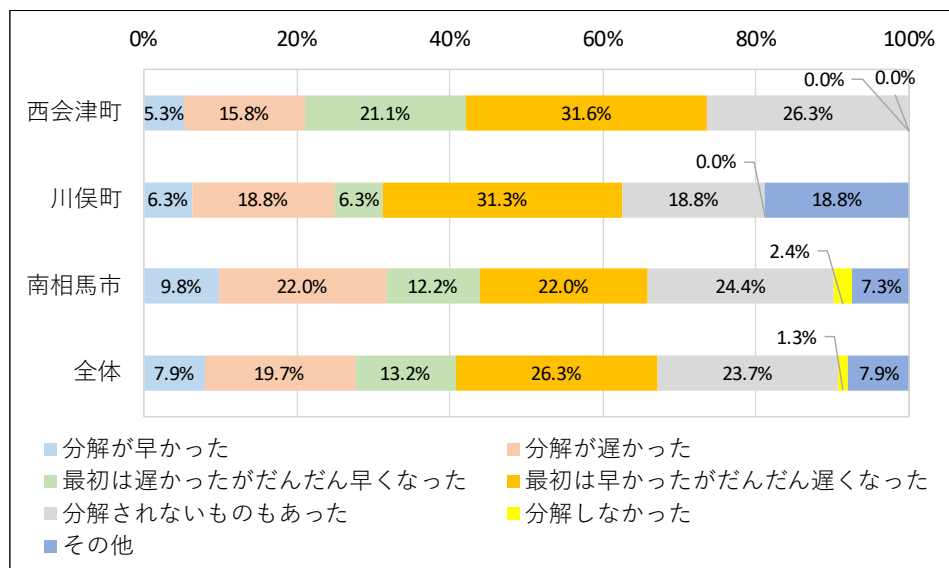


図 6-10 生ごみの分解状況内訳

6-11. 生ごみの分解を促進させる取り組み

生ごみを促進させる取り組みは、55世帯中48世帯の87.3%が取り組んだと回答した。

取り組み内容としては、「米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などを投入した」の30.2%が一番高く、続いて「大きなものは小さく切って投入した」が27.9%、「攪拌をこまめに行った」が18.6%、「一度に投入する量を少なくした」が11.6%、その他の項目は10%以下であった。

表 6-11(1) 生ごみを促進させる取り組み

回答項目	回答数	割合
取り組んだ	48	87.3%
取り組んでいない	5	9.1%
無回答	2	3.6%
計	55	100.0%

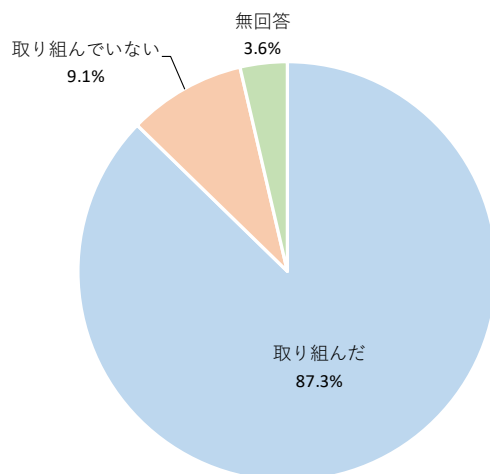


図 6-11(1) 生ごみを促進させる取り組み内訳

表 6-11(2) 取り組み内容（複数回答可）

回答項目	回答数	割合
米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などを投入した	39	30.2%
大きなものは小さく切って投入した	36	27.9%
一度に投入する量を少なくした	15	11.6%
分解状況を確認し投入量を調整した	8	6.2%
攪拌をこまめに行った	24	18.6%
暖かい場所に移動した・保温した	6	4.7%
その他	1	0.8%
無回答	0	0.0%
計	129	100.0%

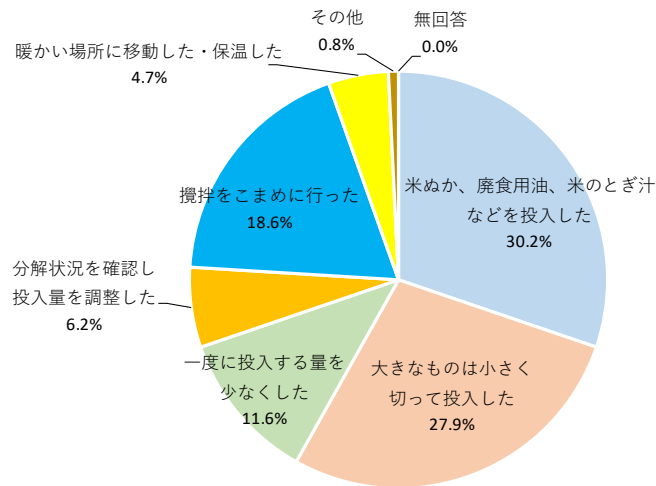


図 6-11 (2) 取り組み内容内訳

6-12. 虫の発生と対策の有無

虫の発生と対策の有無は、「虫の発生はしなかった」が 50.9%、「虫が発生した（対策した）」が 30.9%、「虫が発生した（対策なし）」が 14.5%となり、全体で虫の発生率は 5 割程度であった。

また、南相馬市では他の市町と比べ虫の発生率が低かった。

表 6-12 (1) 虫の発生と対策の有無

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
虫が発生した（対策した）	4	5	8	17	30.9%
虫が発生した（未対策）	4	2	2	8	14.5%
虫は発生しなかった	5	6	17	28	50.9%
無回答	1	0	1	2	3.6%
計	14	13	28	55	100.0%

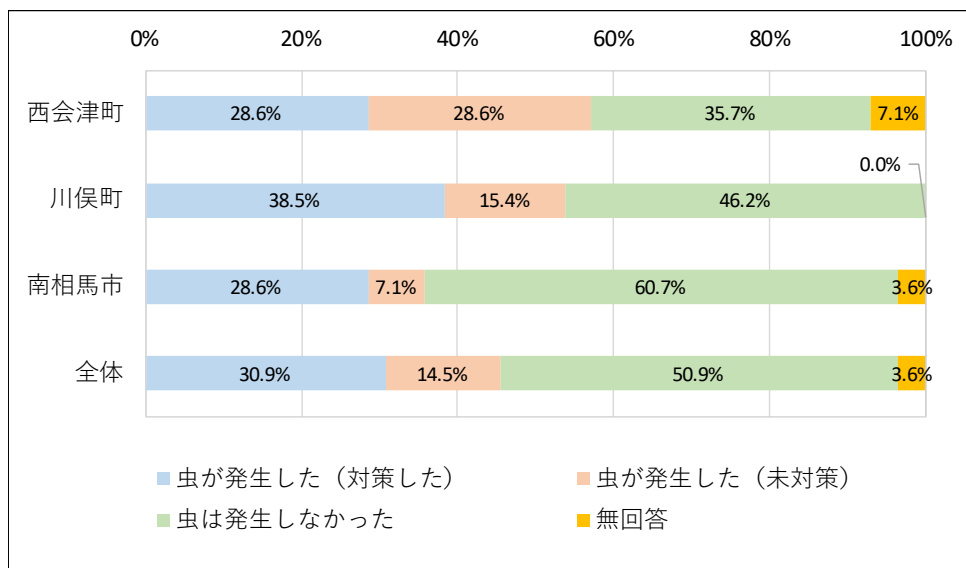


図 6-12 (1) 虫の発生と対策の有無内訳

虫が発生した場合の対策方法としては、「布で覆った」の 28.9%が一番高く、続いて「温度が上がるようにした（米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入）」が 26.3%、「攪拌をこまめに行った」が 18.4%、「つまんで退治した」が 10.5%、その他の項目は 10%以下であった。

表 6-12(1) 対策方法：虫の発生あり（複数回答可）

回答項目	回答数	割合
布で覆った	11	28.9%
攪拌をこまめに行った	7	18.4%
つまんで退治した	4	10.5%
殺虫剤を撒いた	1	2.6%
忌避剤を置いた	1	2.6%
日光を当てた	0	0.0%
場所を移動した	1	2.6%
温度が上がるようにした (米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入)	10	26.3%
その他	3	7.9%
無回答	0	0.0%
計	38	100.0%

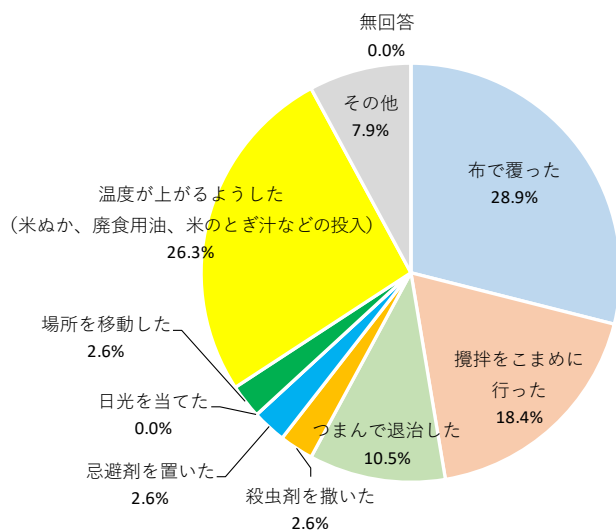


図 6-12(2) 「対策方法：虫の発生あり」内訳

また、虫の発生がなかった場合の事前対策としては、「布で覆った」の 32.8%が一番高く、続いて「攪拌をこまめに行った」が 23.4%、「温度が上がるようにした（米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入）」が 21.9%、「生ごみを保管せず都度投入した」が 17.2%、その他の項目は 10%以下であった。

表 6-12(3) 事前対策：虫の発生なし（複数回答可）

回答項目	回答数	割合
布で覆った	21	32.8%
攪拌をこまめに行った	15	23.4%
虫よけ対策をした（忌避剤の設置など）	1	1.6%
生ごみを保管せず都度投入した	11	17.2%
温度が上がるようにした （米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入）	14	21.9%
その他	2	3.1%
無回答	0	0.0%
計	64	100.0%

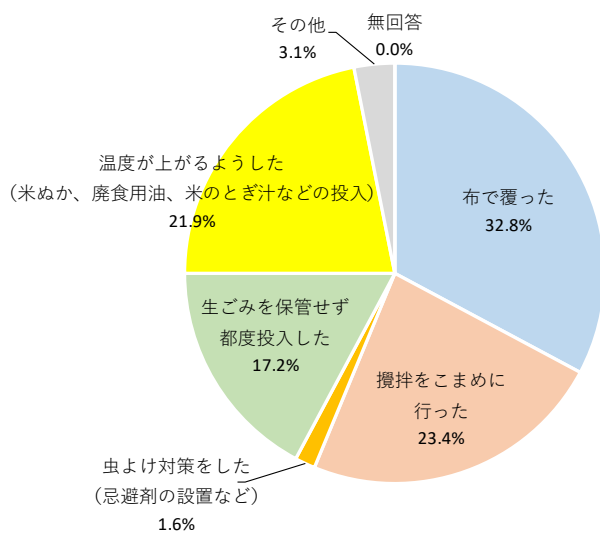


図 6-12(3) 「事前対策：虫の発生なし」内訳

6-13. 臭いの発生と対策の有無

臭いの発生と対策の有無は、「臭いは発生したが気にならない程度だった」が56.4%、「臭いは発生しなかった」が18.2%、「臭いが発生した（対策あり）」と「臭いが発生した（対策なし）」が10.9%であったことから、7割以上で臭いによる問題は無かったとなった。

表 6-13(1) 臭いの発生と対策の有無

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
臭いが発生した（対策した）	3	1	2	6	10.9%
臭いが発生した（未対策）	0	2	4	6	10.9%
臭いは発生したが気にならない程度だった	6	8	17	31	56.4%
臭いは発生しなかった	4	2	4	10	18.2%
無回答	1	0	1	2	3.6%
計	14	13	28	55	100.0%

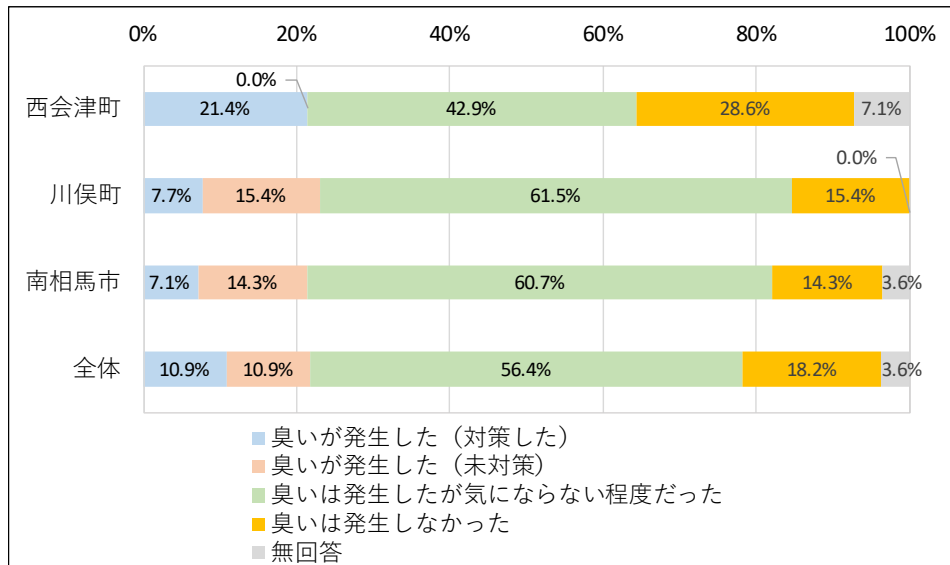


図 6-13(1) 臭いの発生と対策の有無内訳

臭いが発生した場合の対策方法としては、「温度が上がるようにした（米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入）」が2世帯、その他の項目は1世帯ずつが回答した。また、その他の回答は、「コーヒーかすを投入する」であった。

表 6-13(2) 対策方法：臭いの発生あり

回答項目	回答数	割合
場所を移動した	1	16.7%
蓋の補強	1	16.7%
通気性を確保した	1	16.7%
温度が上がるようにした (米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入)	2	33.3%
その他	1	16.7%
無回答	0	0.0%
計	6	100.0%

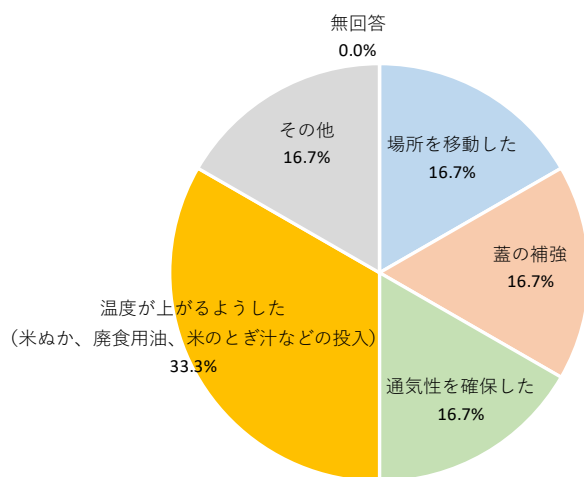


図 6-13(2) 臭いの発生の対策内訳

6-14. モニタリングに参加しての感想

モニタリングに参加しての感想は、「今まで以上にごみ減量に興味をもった」の25.0%が一番高く、続いて「自己研鑽や啓発となった」が18.3%、「燃えるごみの排出量が減った」が16.3%、「楽しく実施できた」が15.4%と肯定的な意見が多くあった。しかし、「途中でやめたくなった」が12.5%、「うまくいかなかった」が7.7%など、否定的な意見も少なからずあった。その他の回答では、「家族内で温度差があった」や「毎日ほぼ義務感で実施」、「現在はアパートで一人暮らしのため将来はもっとやりたい」などが挙げられた。

表 6-14 モニタリングに参加しての感想（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
楽しく実施できた	5	5	6	16	15.4%
子供などの教育となった	1	0	0	1	1.0%
自己研鑽や啓発となった	7	5	7	19	18.3%
今まで以上にごみ減量に興味をもった	7	4	15	26	25.0%
燃えるごみの排出量が減った	4	4	9	17	16.3%
うまくいかなかった	0	2	6	8	7.7%
途中でやめたくなった	2	4	7	13	12.5%
その他	1	0	3	4	3.8%
計	27	24	53	104	100.0%

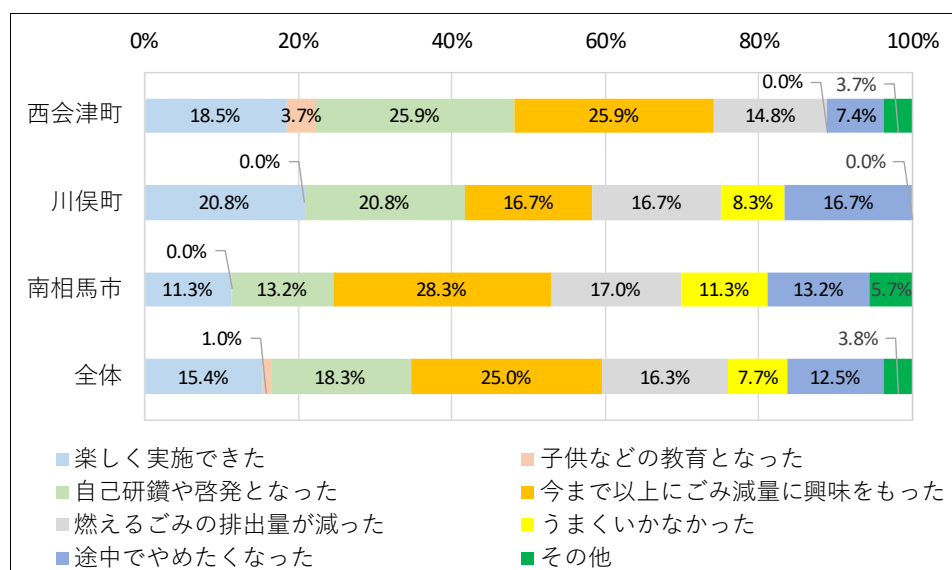


図 6-14 モニタリングに参加しての感想内訳

6-15. ごみ減量に対する意識の変化

モニタリング実施後のごみ減量に対する意識の変化は、「大変高まった・高まった」が、西会津町では92.9%、川俣町では53.8%、南相馬市では71.4%となり全体で7割以上の方の意識の向上が見られた。特に西会津町では無回答の方を除き、すべての参加住民で意識が高まった回答となった（端数処理のため図の数値と異なる場合がある。）。

また「意識が変わらない」は、川俣町では30.8%、南相馬市では25.0%となり全体で2割程度となった。「意識が低下した」は、川俣町で7.7%となり全体で1.8%と低い値となった。

表 6-15 ごみ減量に対する意識の変化（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
大変高まった	2	3	5	10	18.2%
高まった	11	4	15	30	54.5%
変わらない	0	4	7	11	20.0%
低下した	0	1	0	1	1.8%
無回答	1	1	1	3	5.5%
計	14	13	28	55	100.0%

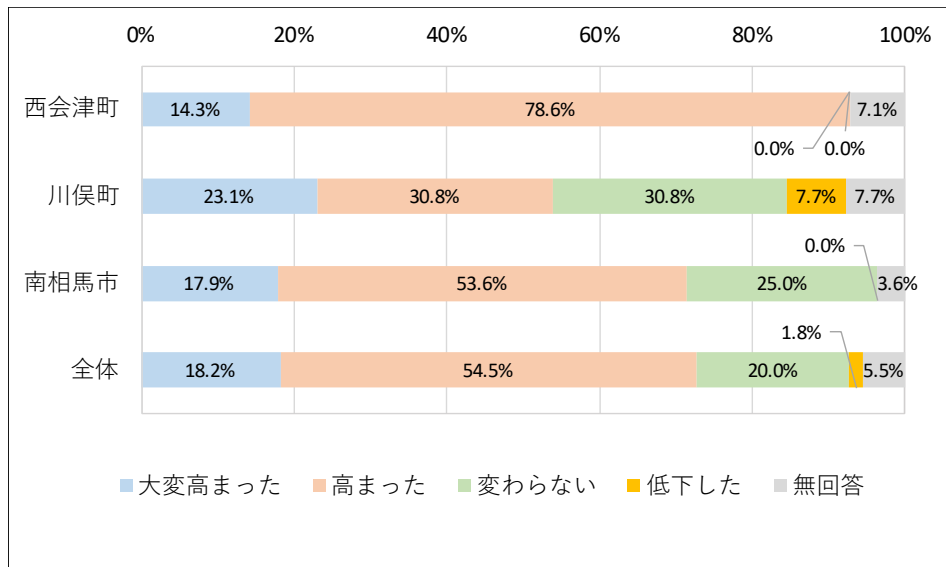


図 6-15 ごみ減量に対する意識の変化内訳

6-16. 今後の取り組みについて

今後の取り組みについては、「継続してはやらないが、機会（催しなど）があればやる」の50.9%が一番高く、続いて「継続して取り組む」が23.6%、「やめる」が21.8%であった。

また、西会津町では「やめる」が7.1%と他の市町と比べ低くなっており、他の市町と比べごみ減量に対する意識が高いと思われる。

表 6-16(1) 今後の取り組みについて（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
継続して取り組む	4	4	5	13	23.6%
やめる	1	4	7	12	21.8%
継続してはやらないが、 機会（催しなど）があればやる	8	5	15	28	50.9%
無回答	1	0	1	2	3.6%
計	14	13	28	55	100.0%

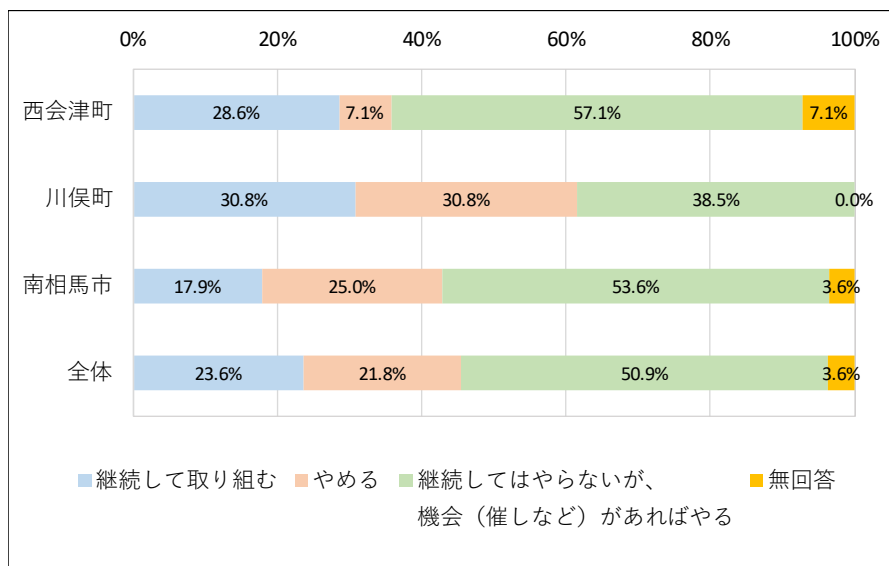


図 6-16(1) 今後の取り組みについて内訳

「やめる」の回答の主な理由は、「最初からモニター期間だけ、取り組むつもりでいた」が6世帯あり 50.0%を占めていた。また、「虫の発生が気になる」は4世帯あり 33.3%であった。「堆肥の利用目的がない」と「その他」は1世帯ずつ回答があり、その他の回答は、「生ごみ乾燥機を購入したため」であった。

表 6-16(2) 「やめる」と回答した理由（回答数）

回答項目	回答数	割合
虫の発生が気になる	4	33.3%
堆肥の利用目的がない	1	8.3%
最初からモニター期間だけ、取り組むつもりでいた	6	50.0%
その他	1	8.3%
計	12	100.0%

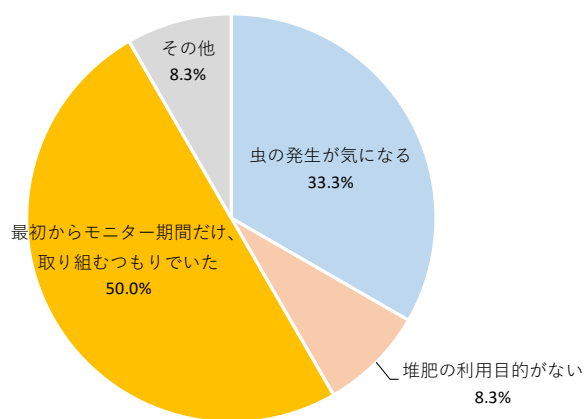


図 6-16(2) 「やめる」と回答した理由内訳

6-17. 今後このような企画があれば参加するか

今後このような企画があれば参加するかについては、「参加しない」の40.0%が一番高く、続いて「参加したい」が25.5%、「その他」が16.4%、「知人にも勧めて参加したい」が7.3%であった。「参加しない」の割合が一番高くなった理由としては、モニタリング時の計量や管理が大変であったり、虫の発生など否定的な意見に加え、自分で継続していくや他の方法でごみ減量を行うなど、企画には参加しないがごみ減量は続けていくといった意見が多かったためだと考えられる。

また、西会津町では「参加しない」が14.3%と低くなっており、他の市町と比べてごみ減量の企画や催しに対して前向きな姿勢であると思われる。

表 6-17 今後このような企画があれば参加するか（回答数）

回答項目	西会津町	川俣町	南相馬市	全体	割合
参加したい	8	1	5	14	25.5%
知人にも勧めて参加したい	1	3	0	4	7.3%
参加しない	2	5	15	22	40.0%
その他	0	3	6	9	16.4%
無回答	3	1	2	6	10.9%
計	14	13	28	55	100.0%

参加しない理由
60日間は長い
計量や管理が大変
虫の発生でうまくいかなかったため
アパートの室内では実施は難しい
自分で継続していく
自分なりの方法でごみの減量を行う など

その他の理由
参加したくもありしたくもない
畑に野菜くずを置き堆肥とする
自分でやってみる
わからない
自分の生活に合えば参加も考えたい
別な方法でやってみたい・プラスチックボックスで試してみたい
家庭菜園の片隅で続ける など

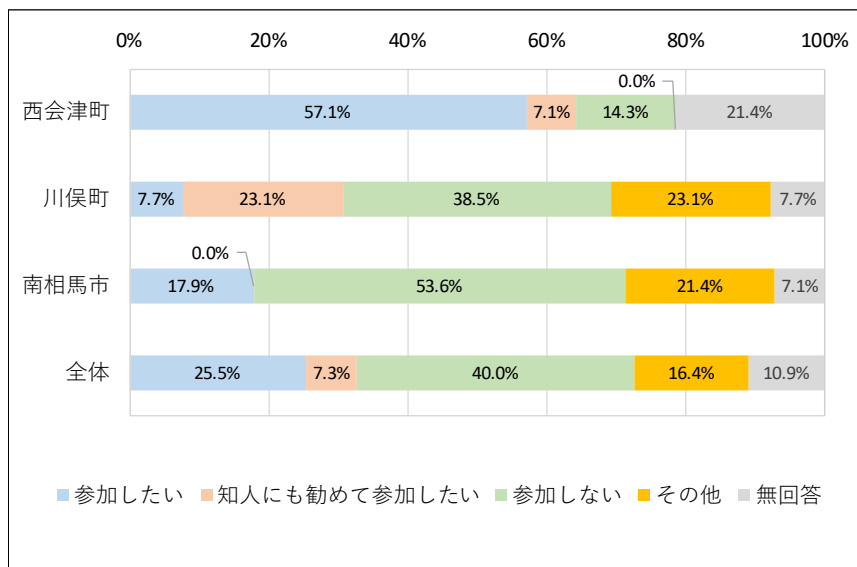


図 6-17 今後このような企画があれば参加するか内訳

6-18. モニタリング実施時の工夫点 [自由記述]

モニタリング実施時の工夫点に関する内容を主に抜粋し、下記に記載する。

・米ぬか、とぎ汁、廃油を加えて温度を上げるようにした
・なるべく小さく切って投入した ・果物の皮等は投入しなかった
・10月に入って毛布を掛け温度を上げた
・楽しんでやる ・細かく刻む ・生ごみ発酵促進剤も使用（コンポスト用）
・ダンボールの底が弱くなったので下に新聞紙をあてた
・野菜を細かく切り、外出する際は冷蔵庫に入れて夕方に計り使用した ・攪拌時、平にしないで山を作ってみた
・バスタオルだけでなくひざ掛け毛布も被せた
・途中から温度計で測定した ・何回か米ぬかを加えた
・置き場を台所の近くに置き投入しやすくした。管理もしやすかった。
・土台のペットボトルとの間にタオルを敷き、位置を時々変えた。(接触している面のダンボールが弱ってくるため)
・晴れた日は細かくした野菜くずを天日干しにしてから投入した
・バスタオルを掛けひもで縛ったので虫の発生がなかった ・多量の投入や分解しにくいものは控えて投入した
・野生動物に荒らされそうな残飯は、JAのコンポストに入れ周りを鉄の棒で固定した
・陽、雨風が当たらず下に空間を作った
・100均のチョッパーで野菜くずを細かくした ・新聞紙を入れ替えた際、隅をガムテープで留めてめくれ防止した
・10月中は暖かい日は太陽の当たるところに移動させた ・あまり水分の多いものの投入を控えた
・全て小さく切って投入
・温度を上げるため、ぬか、油、ヨーグルトなどを投入（油の処理が不要になり一石二鳥）
・土の乾燥具合を見てとぎ汁を追加した ・家族で交代しながら作業した
・直射日光が当たらない場所に設置した ・毎日攪拌した
・投入する生ごみを1時間ぐらい干してから、5mmぐらいに切って入れた
・毎日々かき混ぜる ・米ぬかを毎日混ぜる ・水、米のとぎ汁、廃油で基材の固さを調整した
・野菜くずをざるに入れ水を切り、小さく切って投入 ・米ぬか、とぎ汁を入れた
・野菜くずを少し乾かして投入した ・ダンボールの底にビニールをあて大きめのダンボールを重ね補強した
・生ごみをカットして投入
・家族にも協力を求めた
・乾燥させてから投入した ・蓋をきちんと密閉した ・日陰の日の当たらない場所に置いた
・計量忘れ防止のため張り紙をした
・乾燥防止で二日おきに米のとぎ汁を入れ、温度が上がるのを待って生ごみを入れた
・おカしの袋、ティッシュ箱、紙類は紙袋に溜めておいて、資源回収としてダンボール、新聞紙などと一緒にボランティア団体へ出している。 ・野菜くず、果物の皮などは細かく刻んで投入した。
・ペットボトル、カン、ビンなどは買い物時に毎回持っていき、店頭前にある箱などに区別して入れている。
・プラごみとして出せるものは、きれいに洗って資源物として出している。
・温度が上がらない時は、廃食油や米ぬかを投入した ・朝、夕よく混ぜた ・生ごみが新しいうちに投入した
・調理くずを多めに入れた
・できるだけ水分を抜いた
・設置場所を作業納屋の下屋で、雨の当たりも無く風通しも良いビールケースの上に設置
・臭い防止でコーヒークラス投入 ・細かく切り水分を絞り投入（魚類は投入しなかった）
・水分で底が抜けないう、新聞紙を多めに敷いた ・脚立を並べてその上に置き風通しを良くした
・大きな布で覆った
・虫の発生の防止でバスタオルを掛けた ・野菜くずを細かくした ・温度が下がると米ぬかを投入し混ぜ込んだ
・気温が低い日は半日程度日が当たる場所に移動した ・花がらを入れると分解が進んだ
・ダンボールの中に大きいビニール袋を入れて、その中で実施したので攪拌が容易にできた

<ul style="list-style-type: none"> ・投入する量をできるだけ同じ位にして、細かくして投入した ・ある程度日が当たり風通しの良い場所に設置した
<ul style="list-style-type: none"> ・水分を多くし温度を上げた
<ul style="list-style-type: none"> ・100円ショップで園芸用の不織布がありそれを買ってダンボールにかけた(防虫、保湿) ・不燃布を底の新聞紙の下に敷き底の強度を上げた ・コーヒーや茶殻などを必ず入れるようにして水分を調整した
<ul style="list-style-type: none"> ・温度により米のとき汁や米ぬかを入れて調節した
<ul style="list-style-type: none"> ・資料通りにやった
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールを買い物かごの上に置き通気性を確保した ・一定の時間に作業する
<ul style="list-style-type: none"> ・米ぬかを投入した ・水分量に気を付けた
<ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールでないものでコンポストを作ってみたい

6-19. 福島県民の1人1日当たりのごみ排出量は全国でワースト1位であることについて、あなたの意見・感想があれば教えてください [自由記述]

ごみの排出量や減量化に関する意見・感想を主に抜粋し、下記に記載する。

<ul style="list-style-type: none"> ・庭や畑がある方は外用のコンポストを勧める ・スペースのない方はエコではないがプラスチック製のコンポスト容器を使った生ごみ減量を勧める
<ul style="list-style-type: none"> ・意外である。使い捨て用品の控えやリサイクル品分別等、手軽にできることを徹底したい。 ・以前、生ごみ処理機を購入し使用した経験があるが、臭いがひどくまた、思った以上に電気料もかかり、エネルギーを使用してまでやる価値があるか疑問に思った。
<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんごみ減量意識は持っていると思います。実行するのが大変みたいです。私は大きなコンポストを買いました。減量に取り組んでいきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・大変驚き残念。ひとり一人、また県全体で考え行動に移し減量していかなければと思う ・畑も少しやっていて野菜廃棄も多いので同時にコンポスターにも挑戦している。はじめはごみの種類も量も多かった。そんな折、この活動を知り少しでも減量につながればと思い参加した。 ・私一人の力は小さいですがこれからも続けていきます。 ・退職してから8年間ごみ拾いを続けている(県道)。
<ul style="list-style-type: none"> ・刈草の様なごみだけを入れておき、自然分解により堆肥化し、欲しい人が自由に使えるようにしたら困らないのではないかとごみの日によく草の袋を見るため、上記の考えになった。 ・家庭菜園などしているとナスの枝など、昔は畑で燃やしていた物をごみとして出すしかないのでは普通の都会生活の人よりはごみが多くなってしまふ。
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ置き場にある袋を見ると、リサイクルできる物(紙パック)や生ごみが入っている ・捨ててしまう洋服を座布団カバーや雑巾などに再利用している。また、牛乳パックを使つての椅子を作り利用したこともある。 ・生ごみの処理に関心を持ってほしい
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本災害で生じたごみは排出量に入らないのですか? ・当県がどうしてワースト1位なのか解明してほしい ・店舗での残り商品のフードロスが無駄にいませんか? ・個人のロスをしない意識も高めていかなければいけないと思う
<ul style="list-style-type: none"> ・本県、特に本町は高齢者が多く、どうしても調理済みのお惣菜や漬物を購入することが多い。その度トレイ、容器、袋等のごみが大量に出る。何とかしなければとは思ふ。
<ul style="list-style-type: none"> ・何をどう改善すれば良いか、具体例を示して行動に移してもらふ。取り組みに目標をもって個々で実践し、少しずつ減量につなげる努力が必要だと感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・メタボもワースト上位だと聞きます。それは食事でもひもじい思いをしないように多く買い物をする習慣があるからだだと思います。また、買い物も車がないと行けないので買い溜めをして、結果余って捨てることがあります。望ましくない生活習慣が様々な分野へ悪循環していると感じます。それをどこで断ち切るかではなく多分野の力を合わせて好循環に向けていかなければなかなか変化しないと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを減らすことが大事である ・モデル事業を止めてから、燃えるごみの量が増えそう

<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー等での賞味期限間近の物を安くすることは食品ロスの減量につながると思う。 ・一定規格でない変形野菜なども安く出荷できるようにすれば、購入者も安価で食品が手に入り助かると思う。 ・商品の過剰包装もごみの多くなる原因だと思います。マイバックのように、簡易包装化または無包装で陳列すればごみ減量に役立つと思います。 ・リサイクルの輪を整備拡充すればごみ減量につながります。
<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみで出していた物の中で生ごみの比率はさほど高くないと思える。 ・プラごみで出せない汚れたものや、包装資材等の紙類のごみが多い気がする。 ・古着なども可燃ごみとして出していたため重量が増えている。 ・ダンボール、紙パック、古紙用紙やチラシは回収業者に月1の割合で出している。
<ul style="list-style-type: none"> ・三つの「きり」を実践することで生ごみの削減ができると思う ・ひとり一人の心掛けでごみ削減が出来るのではないのでしょうか ・都会と田舎の人たちで実施する方法は工夫したら良いのではないかと ・プラごみと過剰包装が多いと思う
<ul style="list-style-type: none"> ・庭の枝や草を5～9月に何度もごみに出している。ごみ集積所にも大量に出されているので、そうした物の処理方法があるかと思っている。自分は今シーズンはご近所さんのご厚意で除草した草は、畑に置かせてもらい肥料にして活用してもらった。 ・今まで台所ごみをビニール袋に入れて捨てていたが、新聞紙で袋を作りそこに入れ、水分を切るようになりビニール袋を利用する場面がほとんどなくなった。 ・今回の取組でごみ減量に対する意識が高まった。
<ul style="list-style-type: none"> ・残念なことだと思います ・ひとり一人の意識を変えていくことが大事だと思う ・今回の取り組みで自分自身の意識が変化したように、まずはやってみる機会があるかと思っています
<ul style="list-style-type: none"> ・コンポストの取り組み自体は良いことと思う。しかし、コンポストの堆肥を利用目的を持って行う人は少ないと感じる。堆肥の買い取り等があれば意欲が湧くと思う。 ・自分の家庭では、老人は安い理由で食品を買い込み、それをどんどん追加で安い食品を買い足している。それが結果的に残飯となっている。 ・物を捨てる行為が苦手で、食品に限らず物が増える。
<ul style="list-style-type: none"> ・こういう取り組みに参加することにより、食材の購入や、調理の段階から量を意識するようになった ・急に減らすのは難しいが、少しずつ啓発していくことが最も効率的なのではと感じた
<ul style="list-style-type: none"> ・どんなごみが多いのだろうか ・8、9月は草が多かったが乾燥させてからはいかなかった ・神奈川県葉山市の国土を使った「キエーロ」というコンポストはどんなものだろう興味がある
<ul style="list-style-type: none"> ・食材を使い切ること ・資源ごみを分別して出す
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ袋を有料化してみても
<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ処理容器の購入を考えている ・わが町の家庭用プラスチックごみ分別回収なし、がっかりしています
<ul style="list-style-type: none"> ・以前は自宅でごみの焼却をしていましたが、市のごみ処理場が充実していて利用しやすくなり、逆に増えたのではないかと
<ul style="list-style-type: none"> ・生活スタイルにも影響があると思います。自給自足が多い農家が多ければ野菜の廃棄も多いし、都市型で既製品を食すれば生ごみの発生もないわけです。今回の実験で思ったことは、生ごみの再利用を考えるセミナー等を各市町村で取り組みし、参加された方にはポイントをあげて何点貯まったら何かもらえるみたいになればごみ減量に繋がると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり一人や各家庭のちょっとした意識で減量は可能 ・行政としての取り組みも大事だと思う。 ・今回のモニターに参加前は、生ごみ処理機を使用していた。 ・南相馬市は廃プラの分別も始めて日が浅い。 ・先日、商工会議所女性会の勉強会で市役所の担当者を招いていろいろと学んだ。こういう機会を多く設けて呼びかけることが大事だと思う。 ・生ごみの水分を減らすのに周りの人への呼び掛けも心掛けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・全国ワースト1位であることを県民が知って自覚しなければ何も始まらないと思います。広報が大事でテレビ等も活用出来たらいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュースなどで知りびっくりした。 ・無理なく続けていくことが一番。 ・家族みんなで、ごみ減量の取組を話し合っ、意識してやれば良いと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別をしっかりと、少なくすることです ・食べきれただけ調理する ・2～3日調理する分だけを購入し、廃棄しないようにする ・「三つのきり」を実践していきたいと思っています
<ul style="list-style-type: none"> ・食料品も日用品であっても必要な物、量を求めて、無駄のない日常にしたいと思っています。 ・とにかくひとり一人がごみを少なくすることを意識づけることが大事なかなと思います。

<ul style="list-style-type: none"> ・過剰包装の更なる見直し、取り組みが必要ではないか ・自分自身作りすぎに気を付ける ・ひとり一人のごみ問題への意識が重要と考える
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の我が家も孫たちの紙おむつがあり、どうしてもごみの量が増えている。 ・自家野菜を作っているの焨の物は焨に戻して土に戻している。 ・買い物時なるべくごみの出ない商品を選び、トレーやペットボトルもそれぞれ処理している。 ・今後、食品の余剰を減らし、食べきる量の調理を心掛けてゆきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを分別することでごみの排出量が減った。水切りも有効であった。 ・ごみ処理は無料でないことを住民に意識づけるため、広報活動は重要であると感じた。 ・焼却施設の運営は私達の税金が充てられていることを知るべき。ごみの排出量を減らすことは、焼却施設の延命化やCO2削減に寄与することと、生活環境をまもるため私達は心掛けるべきと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり一人の自覚が最も大事だと思うが、自分たちのごみ処理に多額の税金が使われていることを金額を含め分かっていないと思うので、もっと広報等でPRすることも重要だと思う。 ・サロンで市の生涯学習出前講座でごみ分別の講習を受けたが大変勉強になった。市では年度初めにごみ分別の冊子を配布して周知しているが、サロン等に積極的に出かけていただき講習方式で周知していただくのはいいと思う。 ・現在、燃えるごみは自宅で燃やすことができないが、都市部でなければ燃やしてもいいのではないかと（ダイオキシン類の発生しないもの限定で） ・野菜くずや果物の皮などが生ごみのほとんどなので、これらを自宅でもっと簡単に処理できる方法があると良い。 ・ごみの分別も個人の良識に頼っているところがあると思うので、もっと厳しく広報や講習会等により周知すべきと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの集積所を毎回見て感じることは、捨ててあるごみが家庭用とは思えない、業者の物が大変多いこと。 ・リフォームなどで出たと思われる大きいごみが大量にある。 ・植木や焨からでた野菜の枝や食べれないものなど、普段からごみを出すときは出来るだけ少量にすることを心掛けている。 ・買い物も無駄な買い物をせず必要な分だけ。料理を作る時も人数分だけ。 ・ごみに関してはひとり一人の自覚の問題だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ置き場を見ると家庭菜園の草木がすごく多い。ダイオキシンが出ないものは焨などで焼却すれば少なくなると思う。なんで草や木を燃やしていけないのか…燃やせば虫なども処分出来ていいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・今回、ダンボールコンポストを使って、初めて自分の捨てているごみの量が分かった。こんなに多くの量を捨てていたのかと気があった。多くの人に体験してもらうことで、多くの人が気付きごみの減量につながると思いました。 ・あまり誇れることではありませんが、ワースト1位であることを周知する必要もあるのではないかと思います。気付き知ることに対応しなければならぬと、多くの人が分かってくれるのではと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・福島県は人口の転入、転出が激しい県だと思います。リサイクルや生ごみに対する補助金や取り組みについてのPR活動をもっとしていった方がいいのではと思いました
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ集積所に出された袋に震災後には、Noが書かれていないのがほとんどです。記入すれば出したごみに責任を持つと思っている。 ・もっとごみの分類を増やした方がいいのではないかとと思っているが、反対の意見も多そう。
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックの捨て方について、少し汚れていてもプラごみとして回収可能だったりしないと結局は可燃ごみになり、リサイクルになっていない。 ・各自治体で紙類のリサイクルにもう少し本気で取り組んだ方がいいと思う。会津若松市役所では、職場内の紙ごみの分別をしっかりとしていた。付箋やシュレッダーごみさえも紙ごみに分別されていた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ排出の際、できるだけ収納して「袋」の数も減らすことが必要 ・ごみ出しのルールが守られておらず集積所ごとに特徴があるのではないかと(①地区ごとに排出量調査を実施するなどして競争意識を高めることで低減を目指す。②この場合モデル地区の選定でもいいのでは。③収集業者さんの意見を尊重すべきと思う。)
<ul style="list-style-type: none"> ・雑紙、ダンボール、ペットボトルなどは燃えるゴミに入れない ・庭のある方は、草や仏花の枯れたものを燃えるゴミに入れえないように希望します ・着なくなった洋服は燃えるゴミに入れない(古着買取がある) ・これからも自分で取り組めることを継続して、知り合いにも勧めたいと思います

<ul style="list-style-type: none"> ・県民の意識が低すぎます。 ・生ごみだけでなく、その他のごみの分別の意識づけが重要だと思います。 ・県職員の意識も低いです。 ・子供たちから（教育）から関心を持たせることも必要なのではないかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・全国でワースト1位と聞くようになって、初めて意識するようになった ・分別することへの意識の高まりがごみ排出量の減少につながるのであれば、ごみ箱に入れる前に考えてから処分することに努めたいと思う ・ごみ排出量とされているのは分別されず、焼却されるごみについてだけを指すのか、分別されたものも含めてなのか疑問
<ul style="list-style-type: none"> ・なぜワースト1位なのか内訳が知りたい。特に多くごみを出しているとは思えない。

7. まとめ

今回の調査では、西会津町、川俣町、南相馬市の3市町において、81世帯が参加し、各世帯で生ごみをダンボールコンポストで堆肥化し、更に燃えるごみの排出量とダンボールコンポストへの生ごみ投入量を60日間記録することに取り組んだ。記録表は55世帯から返送があり、回収率は67.9%であった。

調査期間中のダンボールコンポストへの生ごみ投入量は、全体で約698.7kgとなり、一世帯当たり約12.7kgの生ごみが削減された。また、可燃ごみ排出量の記録がない5世帯を除いた50世帯の可燃ごみ総量は、約3,617.2kgであり、一世帯当たり約72.3kgの排出量であった。

市町別では、一世帯当たりのダンボールコンポストへの生ごみ投入量および可燃ごみ総量は西会津町が最も多かった。さらに、可燃ごみの総量が多い市町ほど、生ごみの削減量も増加する傾向が見られた。

生ごみの削減率は全体で約17.0%であり、市町間で1%程度の差しかなく、大きな違いはなかった。また、1人1日当たりの可燃ごみ排出量は約442g、生ごみの削減量は約75gであった。令和4年度の福島県民の1人1日当たりのごみ排出量は1,021gであり、富山県と並んで全国ワースト1位(46位)であったが、県内の全世帯がダンボールコンポスト等を活用し生ごみ削減に取り組めば、1人1日当たり約75gの削減が可能となり、排出量は946gに減少する計算となる。この排出量は、令和4年度の全国順位に当てはめると34位に当たる。

ダンボールコンポストに投入された生ごみの種類では、残菜・残飯が全体の13.7%を占めており、投入した生ごみの由来では、食品ロスとされる余剰食材、期限切れ、食べ残しが48.6%を占めていた。また、生ごみに含まれる食品ロスの割合については、半数近くの参加者が「10～50%含んでいた」と回答した。このことから、ダンボールコンポストの活用に加え、食品ロス削減の重要性も広く周知することで、さらなるごみ削減が期待できる。

なお、福島県の1人1日当たりのごみ排出量が全国ワースト1位であることを知らない住民が多く見られた。このため、自治体のホームページや広報を活用し、周知を徹底することで、住民の意識を高める必要がある。また、ごみ袋の有料化を提案する意見もあった。環境省の「平成30年度一般廃棄物処理実態調査」によると、平成31年3月時点で家庭系可燃ごみの有料化を実施している市区町村は全国の63.5%にのぼり、有料化にはごみ排出抑制効果が期待できるとされている。したがって、県内で有料化が未実施の市区町村においては、導入を検討することで、ごみ削減が進む可能性がある。

今回のモニタリングでは、7割以上の参加者がごみ削減への意識が高まったと回答し、終了後も継続するといった意見があった。このことから、本調査はごみ削減に対する意識向上の良い機会となったと考えられる。

ダンボールコンポスト記録表

参加者アンケート

家庭ごみ排出モニタリングモデル事業

参加者アンケート

回答日 令和6年 月 日

市町村名 _____

あてはまる(または、概ね近いと思われる)内容の“□”に✓を記入してください。“その他”を選択した場合は()内に詳細をご記入ください。

1 ダンボールコンポストの使用環境

①使用世帯の構成人数と年代 [下線部に数字を記入。該当の年代の方がいない場合は0と記入]

0～10歳 … _____人 11～20歳 … _____人 21～40歳 … _____人

41～60歳 … _____人 61歳以上 … _____人

②使用世帯の居住地

市街地(町中心部)

住宅街(住居専用地)

郊外(周辺に田畑・農村部含む)

③使用世帯の住居形態

戸建

集合住宅(マンション・アパート・寮・社宅)

2 モニター参加について

①今回参加された理由

興味があったから・やってみたかったから

環境問題の一環として取り組みたかった

普段から行政の催しに参加しているから

その他()

②今回参加されたきっかけ

広報(ポスター・チラシ)

広報(ホームページ・SNS・会報誌)

他者の紹介(知人(職場・学校関係を含む))

その他()

③ダンボールコンポストによるごみ減量の取組経験

初めて取り組む

過去に何回か取り組んだことがある

└ 1回 2回 3回 4回以上

④堆肥の利用先

- 畑利用(販売目的を含む) 家庭菜園(自己消費) 鉢・花壇
その他()

⑤ダンボールコンポストの設置場所

- 玄関 台所 車庫・倉庫
軒下 ベランダ
その他()

⑥ダンボールコンポストの使用頻度 [期間全体の平均]

- 毎日 週4日～6日 週2日～3日
その他()

⑦投入した生ごみの種別 [複数回答可]

- 野菜くず 果物の皮 肉片・魚の内臓
魚の骨・卵の殻 残菜・残飯 茶殻
コーヒーがら 廃食用油 米ぬか
米のとぎ汁 その他()

⑧投入した生ごみの由来 [複数回答可]

- 調理くず(ヘタ・皮など普段食用にしないもの) 余剰食材(調理後余った食材)
期限切れ(手つかず) 食べ残し
その他()

⑨投入した生ごみに、食品ロスはどの程度含まれていましたか。

※食品ロスとは:本来食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。食べ残しや期限切れ食品等。

⑧の余剰食材・期限切れ(手つかず)・食べ残しが該当。

- 全部だったと思う 50%～90%含んでいたと思う
10～50%含んでいたと思う 食品ロスはなかったと思う
その他()

⑩生ごみの分解状況 [複数回答可]

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 分解が早かった | <input type="checkbox"/> 分解が遅かった |
| <input type="checkbox"/> 最初は遅かったがだんだん早くなった | <input type="checkbox"/> 最初は早かったがだんだん遅くなった |
| <input type="checkbox"/> 分解されないものもあった | <input type="checkbox"/> 分解しなかった |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

⑪生ごみの分解を促進させる取り組み

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 取り組んだ | <input type="checkbox"/> 取り組んでいない |
|--------------------------------|-----------------------------------|

⑫⑪で取り組んだと回答した方の取り組みを教えてください

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などを投入した | <input type="checkbox"/> 大きなものは小さく切って投入した |
| <input type="checkbox"/> 一度に投入する量を少なくした | <input type="checkbox"/> 分解状況を確認し投入量を調整した |
| <input type="checkbox"/> 攪拌をこまめに行った | <input type="checkbox"/> 暖かい場所に移動した・保温した |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

⑬虫の発生

- | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 虫が発生した(対策した) | <input type="checkbox"/> 虫が発生した(未対策) | <input type="checkbox"/> 虫は発生しなかった |
|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|

⑭⑬で「虫が発生した(対策した)」と回答した方の対策方法を教えてください

- | | | |
|--|-------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 布で覆った | <input type="checkbox"/> 攪拌をこまめに行った | <input type="checkbox"/> つまんで退治した |
| <input type="checkbox"/> 殺虫剤を撒いた | <input type="checkbox"/> 忌避剤を置いた | <input type="checkbox"/> 日光を当てた |
| <input type="checkbox"/> 場所を移動した | | |
| <input type="checkbox"/> 温度が上がるようした(米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入) | | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |

⑮⑬で「虫は発生しなかった」と回答した方の理由を教えてください

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 布で覆った | <input type="checkbox"/> 攪拌をこまめに行った |
| <input type="checkbox"/> 虫よけ対策をした(忌避剤の設置など) | <input type="checkbox"/> 生ごみを保管せず都度投入した |
| <input type="checkbox"/> 温度が上がるようした(米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入) | |
| <input type="checkbox"/> その他() | |

⑯臭いの発生

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 臭いが発生した(対策した) | <input type="checkbox"/> 臭いが発生した(未対策) |
| <input type="checkbox"/> 臭いは発生したが気にならない程度だった | <input type="checkbox"/> 臭いは発生しなかった |

①⑦①⑥で「臭いが発生した(対策した)」と回答された方の対策方法を教えてください

場所を移動した 蓋の補強 通気性を確保した

温度が上がるようした(米ぬか、廃食用油、米のとぎ汁などの投入)

その他()

①⑧参加しての感想 [複数回答可]

楽しく実施できた

子供などの教育となった

自己研鑽や啓発となった

今まで以上にゴミ減量に興味をもった

燃えるゴミの排出量が減った

うまくいかなかった

途中でやめたいになった

その他()

①⑨参加して、ゴミ減量に対する意識は変化しましたか

大変高まった

高まった

変わらない

低下した

②⑩今後の取り組みについて

継続して取り組む

やめる

継続してはやらないが、機会(催しなど)があればやる

②⑪②⑩で「やめる」と回答した方の理由を教えてください

ダンボールコンポストの作成が難しい

資材代負担になる

ダンボールの入手が難しい

日々の攪拌などが面倒くさい

虫の発生が気になる

臭いの発生が気になる

堆肥の利用目的がない

使用後のダンボールの処分に困る

最初からモニター期間だけ、取り組むつもりでいた

その他()

②今回実施した工夫点を教えてください [自由回答]

③またこのような企画があれば参加したいですか

参加したい

知人にも勧めて参加したい

参加しない(理由を教えてください:

)

その他(

)

④福島県民の1人1日当たりのごみ排出量は全国でワースト1位であることについて、あなたの意見・感想があれば教えてください

写真集



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町①



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町②



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町③



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町④



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町⑤



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町⑥



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町⑦



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町⑧



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町⑨



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町⑩



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

西会津町⑪



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市①



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

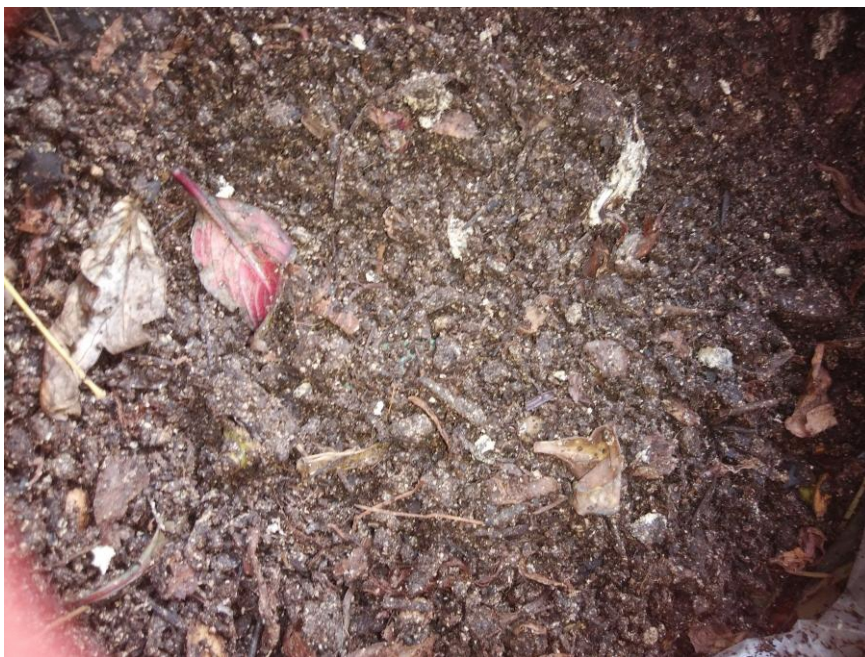
南相馬市②



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市③



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市④



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市⑤



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市⑥



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市⑦



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市⑧



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市⑨



令和6年度福島県
家庭ごみ排出モニタリング
モデル事業業務委託

モニタリング状況

南相馬市⑩